大正二年五月二十七日印刷納本
大正二年六月一日發行（毎月一回一日發行）
大正二年四月二十六日第三種郵便物認可

新眞婦人

第二號

六月一日發行

看護婦見習生募集

年齢十八歳以上
學力尋常小學卒業以上
品行方正ニシテ傳染病ヲ有セザル女子ニ限ル

院長診察 月、水、木、金、午前
入院診後應需
林、峰間、兩副長ハ目下當院ニ在勤
（電本）八八八八（病院用）
八九八八（自宅用）

東洋內科醫院

東京神田駿河臺鈴木町二御茶水橋南

院長 醫學士高田畊安

相州高座郡茅ケ崎町海濱從停車場半里
電話 ちがさき二番

南湖院

河野、高橋、兩副長ハ目下當院ニ在勤
院長診察土曜日午後。入院、診後應需

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

衆議院議員 根本 正先生譯述

歐米 女子立身傳

（第三版）

□菊版紙表優美
□定價金四拾錢
□郵稅金八錢

五色の酒を飲む女は之有り。男子の如き粗暴なる女は之有り。其奇行其衒氣に於ては今や不足せず。然りと雖も此の如き者は眞に婦女子の立身の要素にあらず。是れ皆歐米女子の皮相を眞似たるより來る弊害に過ぎず。然るに本書の說く所はさる輕薄のものにあらずして、實に女子たる者の皆もたざる可からざる、節操。忍耐。溫和。謙遜。慈愛心。勇氣等なり。本書の漸くみとめられて茲に第三版を發行する、また故なきにあらず。

東京市京橋區銀座四丁目一番地　教文館　振替東京一一三五七　電話京橋二五二番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

新眞婦人第二號

口繪　天空の嬰兒

宣　言

三種の婦人運動　西川文子

柳小路より　柏女

男女交際論　西川文子

聖ニコライ號の船上にて
トルストイ翁を見し記　クープリン作　瀬沼夏葉譯

彼女の罪（小說）　鳥林あぐり

戀愛より藝術へ　木村駒子

我の發展　相馬黑光

婦人の生命　中島俊子

神武天皇以來の大問題　塚原澁柿園

（六月一日發行）目次

廿世紀の問題は婦人問題　内ヶ崎作三郎
血の香（口語詩）　木村駒子
思想と實生活　宮崎光子
新眞婦人會へ　SA生
日本女性史（二）　新眞婦人社編
行く春　小口みち子

談話室

離婚の場合（高野重三氏談）○女が無くなつたらドーでしよう（某婦人談）○嫁と姑（某婦人談）○出て行け（某夫人談）○火にも燒けない或もの（河野せき子）
編輯局より△第二婦人雄辯會△新らしき化粧法△新刊紹介

募集文藝

所感（小口みち子）◎和歌◎俳句

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

▲六月七日午後一時より
▲上野精養軒ワキ三宜亭にて

婦人問題研究會

▲講　演
オリブ・シユライネルの婦人論に就て　高野重三
女子修養論　宮田修
講演後二三婦人の感話あるべし
▲會費廿錢（茶菓を呈す、何人も出席自由但し男子は成るべく婦人同件を乞ふ）

主　會　新眞婦人會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

我は天空の嬰兒地と水の女なり

（シエレーの詩、雲より）

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

口繪の說明

之れは御ぞむじの有名なシエレーの「雲」の詩を女のかたちにあらはした繪です、詩も非常によう御座いますがこの繪も大變におもしろい、うつてつけのものとおもひます。

天空をかける雲、自由にとらはれず、而かも七彩美くしく、かれ萎えた花に、海から山川から、新らしい快い夕立の雨をはこんで、よみがへらせる、やさしい愛のはたらきは、我等女性の理想のかげではないでせうか。

あぐり

新眞婦人第二號

宣言

△私たち銘々の心の奥底には、尊い眞な活きた者があります、この無限の潜在力を何處までも發揮しやうと努力しますのが、新らしい眞の婦人の生活であります。

△私たちは斯ういふ精神で努力すると共に、また他の御婦人がたへも御勸め申したいので、此の雜誌を發行することに致しました。

△詳しく申しますると、新藝術、新道德、新信念を發見し、開拓しまして、茲に新らしい人生を創建するのであります。

△それでありますから將來の新藝術は、信念上の努力の表現でなければならぬ事を宣明します。

△要するに、私たちは無限の潜在力を啓發しまして、有史以來、未だ曾て認めなかつた新らしい女性の人格をも、成就しやうと努力するものであります。

△其の立場から見て、結婚問題、離婚問題、家庭問題、其他婦人に關する一切の問題を、研究し、論議し、更に歐米に於ける婦人問題に關する論議に就ても充分研究して、之れを何の位の程度まで、我國の婦人に適用すべきであるかと云ふことも知りたい、之れも本誌の目的の一であります。

△又社中同人及び社友諸姉の創作もオイ〳〵發表し、紙數の如きも、本社事業の發展に伴ひ、次第に増加する考へであります。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

三種の婦人運動

西川文子

今日の婦人運動に三種ありと思ふ、第一は英米風の婦人運動で、第二は獨乙風の婦人運動で、第三は宗教的自覺を說く婦人運動である。

英米風の婦人運動

第一英米の婦人運動は源を佛國に發する、佛蘭西革命の起る前よりして、自由、平等、博愛の思想が盛に唱へられたが、同時にその平等主義を婦人にも應用して、男女も平等でなければならぬと云ふとを說くものが出て來て、女子にも選擧權を與へよと言ひ出した。その考が英國に移り今日の英米の婦人運動となりしものである。尤も今日では英米にもエレン、ケイ等の思想の感化により、婦人問題を云々する人もあれど、大體より云へば、佛蘭西革命より脈を引けるものにて、女子の選擧權、女子の獨立職業などを說くのが英米風の婦人運動である。

獨乙風の婦人運動

第二獨乙の婦人は日本の從來の婦人の如く引込思案であつた爲め、佛、英、米に於けるが如き婦人運動は、獨乙婦人に感染しなかつた。又獨乙の男子も日本の男子の如く婦人を輕蔑し來つたものである。ニーチエとか、シヨウペンハウエルの如き婦人を馬鹿にする哲學者の出たのは、婦人を輕蔑するのは獨乙の國民的感情だからである。併し獨乙は學問の研究の盛なる國であるから、同國の多くの學者は十九

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

世紀の初め頃から或は生理學より、或は病理學より或は心理學より、その他種々の方面より男女の問題に就き研究したものである。其の研究の結果とエレンケイの思想の感化等とで、玆に一種の獨乙風の婦人運動が起るに至つた。獨乙の婦人運動者は、先づ『男子で出來る事を婦人が代つて仕て、男子と同樣に出來るとしても、それは人類全體の上から見れば何等の効果もない事である。婦人には男子の眞似をする事よりも大切なる仕事がある、婦人の天職はどうしても子を產み子を育つる事である、されぱその立場より婦人を自由にしなければならぬ』と說き、進んで『母權を行ふ上に婦人を自由にする事、たとへば離婚が婦人のみの不幸とならぬ樣にする事社會的感情を憚りて愛の無い結婚を續くる事は、善良なる小供を產み、善良なる小供を育つる上に善くないと云ふとか、結婚の形式によらずして結合した男女の間に出來た小供の上にも母權を認めねばならぬとか、其他青年の時から男女に性の教育をしなければならぬ』などと說くのである。

精神的自覺を說く婦人運動

第三の精神的自覺を說く婦人運動者は曰く『婦人が選擧權を得たとて、社會感情が如何に改まつたとて、そんなことは駄目である、婦人自からが實際に價値ある樣にさへなれば、如何なる制度、如何なる境遇にありても、婦人は尊重さるゝに至るのである。その婦人の價値を示すには心の修養と云ふ事が何によりも大切である。先づ自己に克たなければならぬ、即ち眞の自覺に入らねばならぬ。自覺に入つてこそソコに本當の自由、本當の獨立はあるのである、政治上の獨立、財政上の獨立等は抑も末の末である』と、こう云ふことを云ふ婦人運動者は少數ではあるが、今ではどこの國にもある樣である。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

批評

云ふまでもなく、男女に拘はらず、自己に克つと云ふ事が何によりも大切である。されば第三者の議論は尤なことである。併しながら第三の議論をする人の中に、若し英國風、獨乙風の運動を全く無用だと云ふものあらば、それは少し云ひ過ぎではなからうか。英國風の婦人運動も、獨乙風の婦人運動も、婦人の思想を開拓し婦人を本當の自覺に導く上には大切なる刺戟ではなからうか。單に思想として論ずる場合には、第三の思想が尤も高尙である、併しこれは單に原理を語る趣きがありはせぬか、例へば尤には相違なきも、單に孝行をせねばならぬ、忠義をせねばならぬ、人には親切にせねばならぬと、云ふ様なものでなからうか。若しそうとせば、同時に具體的に階段を踏んで説くことも必要でありますまいか。第一第二の婦人運動も婦人を刺戟して婦人の思想を開拓する上に力あるものと思ふ。

斯く婦人運動の範圍が廣いのであるから、私共は充分に之れを研究せねばならぬ、然かるに今日の日本人の多くは（男子も女子も）、婦人問題の噂さをするばかりで、眞面目に研究せぬのは如何にも慨はしいことである。私は今日の婦人運動の意味を眞に了解する人の、日に多からんことを切望に堪へない。

▲私はコウも考へる、社會を進歩せしむる唯一の手段方法は婦人を活潑にし、向上せしめ、發展せしむるにありはせずやと（ホイツトマン）

▲國の進歩の爲めに婦人の意思を活潑にすることを要する（英國一婦人記者）

▲キングスレーは或人に、其の成功の祕訣を聞かれた時、『私には一人の友人がある』と答へたソウである。之れは奇妙な言葉の様ではあるがソウぢやない、實際世の中には友人を持たぬ人が多い、眞に心の底から信じて居る一人の友人をも持たぬ人が多い之れ多くの人々の成功者とならぬ所以である、一人の眞の友人を持ち得る樣な人ならばキツト成功する。キングスレーの言大に味ふべしである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

柳小路より

柏　女

つばめ可愛(かあひ)やけふもまた
　柳小路(やなぎこうぢ)をいくかへり
翠(みどり)千條(ちすぢ)の糸(いと)のれん
　わけつくゝりつ飛びちがふ
翅(つばさ)たゆかろ、、、しんどかろ
　神代(かみよ)のむかしよりむかし
よろづのものをつくりたる
　御親(みおや)の神(かみ)のにはか病(や)み

床(とこ)にいますとふれしとき
　着(き)のみきのまゝとびゆきし
忠(まめ)なすゝめにひきかへて
　裾(すそ)ながき黒(くろ)の晴衣(はれい)しやう
お白粉(しろい)つけて紅(べに)つけて
　おくればせにぞまゐりける
不孝(ふかう)の罪(つみ)の輕(かろ)からで
　物(もの)の實(み)くらふゆるしなく
末世末代(まつせまつだい)あらがれの
　土(つち)をあさりて餌(ゑ)をひろひ
長閑(のどか)にうたふ折(をり)もなく
　人(ひと)のなさけの軒借(のきか)りて
子鳥(ことり)はぐくむさすらひを
　さるべきことゝなしはてゝ
憐(あはれ)むひともないかいな

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

男女交際論（上）

西川文子

男女交際と云へば直ぐ淫猥な事の樣に思ふのは、舊き一種の感情にて、決して科學的新知識によりて判斷せる見解ではない。一口に女は引込んでゐろの、男女交際などは淫猥だのと貶し、女が何事かすれば直ちに罪惡視するが如き、理由なき感情には囚はれないで、充分考へ、かつ研究して彼れこれ云ふべきである。

婦人が男子に茶を出しすゝめ、酒の酌をするのなどは、私の所謂男女交際ではない、私の所謂男女交際は精神的男女交際を意味して居るのである。

此頃婦人の意見、文章が多く新聞雜誌に掲載さるゝ樣になつたが、これは善い傾向であると思ふ、現今の婦人の文章、意見が男子より優つて居るとは思はれない、寧ろ劣つて居るかも知れぬが、婦人は其の爲め内面には努力勉强することゝなり、外面には婦人の思想を男子に知らすことが出來るから善き傾向だと思ふ。

それと同時に、婦人も又新聞雜誌により、演説講演により、男子の意見を見聞することが必要である、之れが即ち所謂精神的男女交際である。又繪畫展覽會により其作品を通して男女の意匠を交換するのも、男女交際の一方面である。

元來知識の方面の天才は多く男子側から出て居るが、情の方面の天才は多く婦人側から出て居る。エレンケイ女史、オリブ、シュライネル女史等は情の方面に貢獻しつゝある天才である、女の誰れしもが二女史程には行かなくても、情操に於ては女は男に優つて居るから男女交際によりて、男子は婦人に知識を與へ、婦人は男子に情操上與ふる所あらねばならぬと思ふ。之れ私が男女交際論を唱ふる所以で、以下少しく此の問題に就て私の所思を述べませう。

本論

一　男女相理解せず

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

今の世の中では男女とも品行正しき者は異性を理解して居ない、多く婦人を知れる男子は不品行、放蕩なる男子にて、又男子を能く知れる婦人も藝妓、娼妓流の婦人にて、眞面目なる男女には殆んど異性の心理を理解する機會がないから、全く互に了解して居ないのである。されば今も尙ほ『男心と秋の空』『變り易いは男の心』乃至は『七人の子をなすとも女に心許すな』と云へるが如き諺が多くの男女に尤と思はれて居るのである。

明治の初年基督敎會にて初めて見た男と女が必らず戀愛に落ちたのなども、戀を省略した結婚が今も尙ほ行はれて居るのなども、皆極端に男女を相離し異性に對する知識を貧弱ならしめてあるから起るのである。

されば男女の交際を盛ならしむることは何によりも今日の急務である、自由戀愛、自由結婚の如きも先づ男女の交際を盛んにしてから後に、始めて程よく行はるゝに至るものと考へる。

二 男女相理解せざる家庭の不幸

某博士は美人好にて、學問なき婦人と結婚せられた、夫人は話し上手にて交際好きな方なるにも拘はらず、博士は自己の耻辱になる如きことを憶面もなく語られてはと云ふ懸念から、何々婦人會などへも一切出席を許さない、而して自宅にても何も解らないと云つて博士は獨り勉强に耽り、妻君とは殆んど何んにも語らないのみか、何にか氣に入らぬ事があれば、一言半句も說明せず、直ちに打擲されるので、夫人は堪えられぬ寂莫に日夜泣いて居らるゝのである。又一人大學生にて妻君を外へ出すのが大嫌な人があつて、或日妻君が外で隣の主人に話しかけられ、チツとお話にゐらつしやいと云はれたので、妻君もあなたもお遊びに來て下さいと挨拶した、ソレを内で勉强して居た夫が聞いて、男子に遊びに來いと云ふは何事であるかと云つて大變に叱つたと云

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ふ事です。だから其妻君はそこまでお使に行くにも夫の學校に行つてゐる間に行くのだッウです。餘り束縛されるものだから、其妻君は今に夫も大學卒業だから今更離緣するのも惜しいが、さらばと云つてこんなに一生窮屈にして居らねばならぬのも困ると何時もこぼして居るとのことです。

以上は夫が妻を理解して居ない例に擧げたのであるが、この反對に妻君が夫を理解せず、夫に對して少しの同情をも持たぬ例も尠くはない、何が不幸だと云つても夫婦相理解して居ない位大なる不幸は人生にないであらう、夫が如何に精神界に活動しやうとしても、妻君が物質慾の爲めに不同意を稱へ、同情がなかつたならば、どんなに勇氣を殺がるゝであらう。又婦人にしても自己を理解せざる夫を持つて居る事は、ソレが如何に學者で身分ある人であらうとも、自己を了解して呉れる勞働者を夫として居る婦人より遙に不幸である。

三　夫婦は友人關係

相理解せざる男女は共に家庭を拵へても、眞の友人とはなれないのである、今日妻君を愛し勞はる人はあつても尊敬する人は尠ない、甚だしきは婦人を動物的滿足を得る丈けのものとしか思はぬ男子さへある、それでは犬や猫を可愛がるのと心理作用は少しも異らない。婦人が自覺して、女も人間としてその人格を認められ尊重せられねばならぬなどと云へば、多くの男子はさも自分の權威を奪はれ、何か損害でも受くる樣に思ふ樣であるがソレは大變な間違で、男子が自己と同等のものを愛し得られぬと云ふことは、人生の一大不幸ではあるまいか。自己より劣つたものを相手にして居ると云ふ事は、ツマリ自己を輕蔑してゐる樣なものである、婦人が自覺して立派な人間となると云ふ事は、男子に取つても非常に幸福な事なのである。衷心より婦人を友人と思ふならば男子は婦人に對しても遠慮、謙愼と云ふこと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

がなくてはならぬ、謹しむと云ふ心があれば放蕩などは毛頭出來ぬ筈である。婦人も決して男子に媚びるには及ばない、媚びると云へばソンな事は決してないと云はれる方もあらうが事實に於ては、どうしても婦人の方から男子に機嫌を取る樣になつてゐるたとへば夫の外泊して歸つた時にも正々堂々たる態度を取り得る婦人が幾人あるであらう。婦人が容易に正當の議論正當なる道理でも其の口から出せないのは、今日の現狀である。

四　平行しての男女交際

越後の長岡に山口せい子と云ふ風俗改良に熱心な雄辯家があつて長岡は風俗の亂れた土地であるからどうかして改良したいと考へ色々に考へた末奧樣や令孃方があまり引込思案であるから、男子が自然面白くないから藝娼妓を相手に遊ぶのであらう、もし奧樣や令孃方がお相手をすればまさか男子は身分正しき婦人の前にて戯むるゝ事は出來ないだらうと思ひ付いて、倶樂部を拵へて、良家の夫人令孃に玉突や何かのお相手をさせられたと云ふ事である。

山口女史の風俗を改良しやうと云ふ御精神は結構であるが、方法は誤つて居ると思ふ、それでは全く一般の婦人が藝妓、娼妓の眞似をしたに過ぎない、眞の男女交際はソンな男子に媚びる樣な精神では出來ない、どこまでも同等の立場に立ちて交際せなくては何んにもならない、卽ち知識の上からも道德の上からも男女が同じ水平線の上に立つて交際し、理解し、了解し、其交際によつて男子は情を高尙に錬磨し、女子は男子より知識を開發され、家庭の不幸をも救ひ、人生の潤を豐富にして、無味乾燥なる社會に生命を與へる樣でなくてはならぬ。

今日に於ては夫婦間に於てすら眞の精神的男女交際は欠乏して居るのである、夫は家內など到底分らぬと卑しみ、妻は夫は我儘勝手なものとしてたてまつて居る家庭が多いのである。コンナことでは駄目

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

だから、之れからは夫婦も精神的交際をする爲めに一日に半時間でも、一時間でも共に讀書をし、文學上、社會上、宗教上の談話をして互に導いて行く樣にあつて欲しいと思ふ。

五　男女交際をさける弊害

男女交際は危險であるからとて、極端に男女を分離する事になれば、男女共に其の見解が狹量になり殊に婦人の智識は閉ざされて了ふのである、のみならず眞面目なる男女は交際をさけ、放蕩淫奔なる男女のみ交際をつゞくると云ふ事になつていつまでしても男女の交際と云へば淫猥なるもののみになり、德川時代にあらはれたる梅暦式の男女のみとなつて仕舞ふ。これは小說が淫猥なのではない、男女間の事實に於ける交際振りが當時其の通りであつたのである。品性低き男女の交際が危險だからとて、人格高き高尙なる男女の交際によつて精神的知識を增し、情操を養ふが如き社會進步の上には缺くべからざる交際をもさくるのは謂れなき事である。卒先して眞摯なる男女交際の道を開く人がなければ、いつまでも理想的の交際は開けぬのである。

又一面より之を見れば、男女を分離することによつて風儀が正しくなれば、ソレもまたよいとも云はれやうが、事實に於ては正反對な現象を見るのが常である、かの折り助部屋、勤番小屋の如き男子のみの屯集所は非常に殺風景で風俗極めて亂れて居たものだと云ふ事である。男子禁制の大奥に仕へし御殿女中も如何はしき話ばかりして居たものだと云ふ事である。昔ばかりではない今日でも兵營所在地や、女ばかりの工場寄宿舍などは淫猥を極め、言語動作も却つて不作法なものである。

男女の異性がある爲めに、世の中が優美に溫雅になるのである。こんな議論はよく讀んでも見ないで僞善なる人に誤解され、嫌はるゝものであるが、こんな問題は嚴肅に考へて、自己の品性によりて高尙なるものに、互に進めて行くことに是非努力しなくてはならぬと思ふ。

次號には斯く男女理解しなくなつた淵源と明治年間に於ける男女交際の經過を歷史的に書いて此論を終りたいと思つて居ります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

聖ニコライ號の船上にてトルストイ翁を見し記

クープリン作

瀬沼夏葉譯

千九百八年、十月十二日、テニシェフの廣間にて催されし、トルストイの紀念會にこれを讀む。

其程に久しい前でもないことだつた。私はプシキンを幼少の折に見たと云ふさる人に遇つた。所が其の人間はプシキンのブロンドのところと、脊の低いところと、又醜い落着かない、周圍の人から終始注意をされるので、何時も羞澁んでゐるやうな様子と其れより外には何にも覺えてはゐなかつた。だが、私には其人間は非常に珍らしく思はれたのであつた、で、私は更に思つた、誰か今、トルストイ翁を、まだその存命中に見たとしたなら、是から五十年、六十年の後には、此の人がまた、矢張珍らしいものに人々から思はれるであらう、と。それで私は嘗て千九百五年の春に、トルズトイ翁を目のあたり見たことを話すのも、あながち餘計なことではあるまい、と、こゝにそれを記すのである。

私はセルゲイ・ヤコレヰチ、エルパチエフスキイから、トルストイ翁が、ヤルタより明朝出發するとの報を得た、私はよく憶へてゐるが、あの快よい風のそよ〳〵と吹く、好い靜な朝、海は少し浪が高く、水は光つてゐた。私はレオ・ニコラエヰチより、些と一時間計り早く『聖ニコライ號』に入つたのであつた。やがて彼は來た、幌をかけた二頭馬車が其處に止つた、馬車の中から、長い獵靴を穿いた老人の足が、馬車の踏臺を探しながらまづ現れて、次いで緩りと老人らしく彼が現れた。トラプのやゝ短い外套

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に、深い長靴、古い山高と云ふ扮裝で、又その青味がかつた白髮の頭や、長いむしや〳〵した白髯などは、皆何やら、笑しいやうな、快よいやうな印象を私に與へた。彼のやうすは、よく西南露西亞に澤山見る所の猶太の老人に酷似してゐた。

私は彼を紹介された。が、彼の眼の色を甚麼色であつたかを私は云ふことは出來ぬ、それは私が此の時に、はつと氣を奪はれて、那樣ことには氣が着く間がなかつたのと、又、この眼の色などと云ふことには、私はいつも別に何等の意味も付けないことからなのとで、私は彼の大きい、冷たい、年寄の硬い手に握手した。前に私は彼を、彼のミケル・アンゼロの書いたモウゼイのやうな眞白な老人と想像してゐた所が、それは案に外れて、彼は何かに、よく細く氣の着く、まめ〳〵しい擧動の中脊の老人であつた。彼の聲は矢張年寄じみた疲れたやうな、細い聲で、一體にもう彼は半病人の年寄と云ふ感じを直ぐに私に與へた。

だが彼は今、其の年の爲で、色の鈍くなつた、おつとりとして目の中の、鋭い尖つたその瞳でもつて、周圍に駈廻つてゐる水夫も、釣上臺も、また波戶場にゐる人間も、空も、太陽も、海も、又我々總て今此所の船の上にゐる人々の心の中までも、殆ど餘す所なく、たゞ無意識に、習慣的にこれ等を瞬間に汲で了つたのであつた。

さうして面白かつたのは、船の人々が、トルストイと一所に來たところのドクトルのヲルコフと云ふのを、その髮のくしや〳〵になつてゐるのと、すんなりしてゐる毛が、ぴつたりと頭に喰着いてゐたのとで、彼をマクシム・ゴリキイに見違ひたことである。人々は彼の後にぞろ〳〵と尾いて行つた。その間にトルストイは自由になつて、仕合せよしと、いそ〳〵して船の鼻の方へと進んで行つた。其處には外國に移住する人や、アルメニヤ人や、韃靼人や、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

妊娠してゐる婦や、勞働者や、みすぼらしい補祭などがゐたが、驚いたことには、彼等が皆、トルストイを全く解することの出來ないもの等までが、尊敬をもつて彼の爲に道を開いたのであつた。

彼は全然、道を開かれたる帝王の御通過になるやうに、人々の前を通つた。で、私は急に聖堂の詠歌の『見よ、光榮の王は入り給ふ』の一節を思ひ出して、さうして更に私は非常なモスクワ崇拜家の私の母の前に話した話を思ひ出したので、それをある冬の、天氣の好い晩のこと、トルストイがモスクワのある横町を通つたが、すると、彼に出遇ふ人々は、皆彼に帽を取つて、眞心からの挨拶をした、と云ふとだつた。で私は今初めて悟つた、はつきりと認めた、詰り人の爲に許さるべき權威の唯一の形式は、此の衷心から迎へられたる創作的天才の、甘い、神神しい權威であると。（未完）

小説 彼女の罪

鳥林あぐり

藤子は此世に唯一人しか持たれぬ生の母に對して抑へられぬ憎惡の念を持つて居たといふのが、又何ともいはれぬ程寂しく悲しかつた。それが公の義憤から發してゐるのを思ふ時には幾分か慰めに似たものを得ないのでもないが、今一歩進んで憐むといふ廣い溫い愛の心の持てぬのが自らの氣にいらなかつた。

いつも病父の枕邊に座ると其感を一層も二層も深くして我知らず泣きさうになつてしまふので、つひには見舞ふのがいやにさへなつて三度が一度といふ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

様になるのが、さらぬだにぢれ氣味の自尊家の我ままな病父には氣に喰なかつた。二週間のとだえを流石に心とがめがしてをとなしく床裾の方へ座つて
「御無沙汰しました。少しは快う御座いますか」
と尋ねる藤子を見るよりはやく病父は皮のうすくなつたかんにん袋を破裂さした。
「今日で幾日になると思ふ、十四日目だ、お前はたつた一人の父の病氣なんか何とも思つては居ないのだ、忘れて居るのだ、此間電話をかけた時に何と云つた？二三日は出られませんが如何いふ御用でせうと聞いてよこした、どうせ又ろくな用事ではあるまい、用事によつては面倒だから行かなくてもよからうと思つて居たに違ひない、よくわかつてゐる、安心して大丈夫だ、どんなに困つても金の事など最早決して何もお前には云はないから……決してかまつて呉れるに及ばん」
藤子は緊く口をつぐんで椽側に置いた大鉢の白牡丹をみつめたまゝ一言もいはなかつた、お貞さんと藤子の呼ぶ病父の今の内縁の妻ははら〳〵しながら、「何ですねあなた、そんな事おつしやつて、藤子さん病氣の作用ですから氣にしないでね本當にあなたそんな事おつしやるものぢやありませんよ」とさへぎるとなほ募つて
「うるさい、やかましい」と怒鳴つける、
藤子は動きもしなかつた、目は涙で一ぱいになつて顏色は眞蒼になつた。
お貞は藤子が腹を立つたと思つたので、がまんして下さい病人だからと云ふ意味を目とあごで信號する藤子は又怒りはしませんといふ意味を目で答へてゐた。
實際藤子は腹が立つて來た、けれど其はこの氣の毒な病父にではなくて、今は別れてひとり住の母に對していつもの火が燃えて來たのである、どんなに困つても金の事など最早いはぬと父の言を聞いた時

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

藤子は背柱がゆるぐ樣な悲哀の感に突然襲はれた。
昔金錢を湯水の樣につかつた名殘が、今も殘つて金遣ひのあらい父、足る事を知り得ずに常に過去を追想してはわが世の末をなげいてゐる父、眞の愛を解さぬ爲に愛に救はれる事の出來ない不幸な父。
彼は自らのうでによつて少なくも月に百圓近い金は今もとつてゐるらしい、藤子からも小さいくらしのたつ位は月々に送つてゐる。
けれどもいつも足なかつた、藤子は人に嫁いだ身でそれより以上仕送る事は到底不可能の事であつた又藤子の理想からいへば自分の里方の者が良人の世話になるといふ丈が最早苦しい事であるのに、父は少しも察しない、むしろ不足らしい事を折々洩らすばかりでなく實際さのみ急を要しない樣な事でもなくてはならぬものゝ樣に要求して來る事さへあつた其都度藤子は自分に對する眞の愛が親子の情が自分の父にはないのだと今更の樣に思ふ。
けれども其を責る心の起るよりも、むしろいひしらぬ同情とあはれみを誘はれて、彼の生涯の悲慘な畫が目のまへにまざ／＼と見えて來ては人生の刺繍の裏があらはに照し出された樣で淺ましさにたへなかつた。
彼は知らぬ、彼は知らぬ、彼は人知れぬ夜半のねざめに何故ひとり子を思ふ爲には黄金さへもいらぬと思ふ程切なる愛を味ふ事が出來ぬかと、自ら密に疑うては心の顔を赤らめてゐるであらう、無理ではない、決して無理とは思はない、空恐ろしい謎の糸を彼には解くよしもない、彼の罪ではないのであると藤子は又それを思ひ出したのであつた。
過日受取つた母の文に
この間お前さんからの手紙に――いろ／＼義理のあるお父樣にさへ思ふ樣にしてあげられないものを、出來るのにあなたをかまはないのでないのですから少しは察して下さい――とありま

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

したが、藤ちやんそれは何かの間違ひではありませんか、何も彼の人がお前さんに着物一枚きせたのではなし云々、とあつた。

藤子は靜かにやさしい子心でその文を終りまで讀めなかつた。

着物きせたり、育てたりしたといふ其事が義理ですか恩ですか、親子といふ關係ですか育てなくても見なくても親は親子は子です、たとへ此世に生み出して己が乳房にはぐくんでもかゝはりないものもあります、義理も人情も恩愛もそんな處にあるのぢやありません、人の生命にかゝはる大事を大事とも思はなければ、永遠までも波動の樣におくられてゆく罪のなごりを自覺しない靈は禍です、私はそこに義理があります、あなたの分まで負はねばならぬ責任があります、是よりあらはにいふ事は私には生きて居ては出來ませんと、書いた返事は出さないで破いたが、心にとつた寫は消えずにこんな時にはありありと讀まれた。

重さと暗さを増してゆく沈默にたへられなくなつてお貞は本を次の間からとつて來た。

「あなた、これでも讀みませうかね」

「いやだそんなもの、つまらん」と病父はすげなく云つた。

「何です？」と藤子は本の背にかいた金の文字をこつちから讀んだ。

金色夜叉終篇、あゝお宮はつひに狂に行つた、神聖な神戀を投げ捨てゝ富貴に嫁したお宮の運命は所詮呪はれたものであつた。

それさへ赦しがたいものを、其富貴の家もまた捨てゝ戀ならぬ戀に走つた婦人の罪は………藤子は耐へられなくなつた、情しらぬ戀人の爲に名のらぬわが子の幸福の爲に日陰の草と世を送るなつかしい古しへの一靑年の上を思つて………

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

戀愛より藝術へ

木村駒子

一　天の岩戸

希臘の神話ではジュピタアや女神のジュノ、月の女神ダイアナ、日の神アポロンなどが活躍する、猶太の神話では例の禁園の果實を喰つたアダムとイヴこゝでは恥しい次第だが女は男の肋骨の一本にエホバの氣がかゝつて出來上つたに過ぎない、そこに行くとうれしいのは私共の國日本、伊邪那岐神と妹伊邪那美神との睦しい中に五官の王とも謂ふべき左の眼より生れたる天照大神、大和民族の太陽は實に女性であつた、天の岩戸に隱れたる時一天九地悉く黑暗々、神代は女性の全權時代であつた、そして、其光明を復活させるには天宇受賣命が天香山の天の日影を襷にかけて歌ひ踊つた此藝術的女性の力多きに居る、女性と藝術、あゝ私共は神代から此特性を發揮して居る。

二　偉大なる創造

印度の商羯羅の吠檀多哲學で、梵の唯一最高實在を說けば、僧法哲學の迦比羅は二元的傾向を帯びた個的精神の實在を說くし、希臘の哲學でも、初めは水を本源と見たタアレスやアナクシマンドロのト、アパイロンなどの一元說より、ヘラクライトスは火より降り地より上る二つの相反する傾向があると二元的に說いて居る、支那哲學の易に於ても、太極と云ふ一元が陰陽と二元になつて始めて存在の意義が出來る、宇宙の本源に關する極致的の存在は、一から二になり、また一になるやうに思はれる、一の時は無で二になつて有になる、私はどうも存在とゆふ立場から二でなくてはならぬと思ふ、大乘佛教などでも眞如の一元に統べやうとするけれども無明と云ふ邪魔が出る、波と水との起信論の譬喩は、近世哲學のスピノザの波と水とに譬へた差別と無差別との說に相似て居る。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

神秘哲學者ヤコブ、ベエメは相對峙するものなくば一切は暗黑なる無なり、相對峙して始めて存在の境に入ると考へた、私のドグマでは、東西古今の哲人が宇宙觀と云ふ宇宙觀は一と二の間を彷徨して居るやうに思ふ、神秘家ヤコブ、ベエメの相對峙するものなくば一切は無なりと云ふのは丁度私の信じて居る、觀自在哲學の「相反螺狀の力の輪廻」と稱するのに似て居るのである、一切の心靈と云ふ心靈、物質と云ふ物質、悉く相反螺狀の力の錯綜して活躍する姿に外ならない、一切の創造は相反したる、二力の接觸による、此の相反したる二力が、則ち男性と女性である、人生に於ける男性と女性とは宇宙二元の象徴である、自然科學の骨髓なる進化も兩性の交涉によつて續けられる、遠心力と云ひ求心力と言ひ、プラスと云ひマイナスと云ひ、悉くこれ男性と女性の變名に過ぎぬ宇宙に男性がなくなれば、宇宙は消える、時間と空間とに女性がなくなれば時間も空間も滅却する、男女兩性を猶太敎對異敎の關係で解決を試みた獨逸の劇詩人もあるが、私は、男女の兩性は宇宙の根本的二元の當體であると思ふ故に、何處まで化學や、電氣學が進んで行かうと、この兩性を離れることは不可能である、骨盤の相異、子宮と睾丸との相異、腦髓や神經細胞の相異、精蟲と卵細胞の相異位では止まらぬ其細胞を組織して居る極微分子アトムと謂ひエレクトロンと謂ひガイマ線と謂ふやうなものが若しあれば、それもやはり男女の相反性を持て居ることは論を俟たぬ、若し科學的實驗の結果そんなものはないと謂ふならば其實驗は甚だ幼稚なものである、私の直覺は私に囁く、遠心求心の兩力に依りて天體の諸星辰が運行するやうに、プラスとマイナスの吸引力によりて電力が發するやうに、宗敎的信仰の客觀的寫象と主觀的意識と融合して宗敎的エクスタシスを造出するやうに、自然や藝術の客觀美と自己の美的意識と相逢ふ時、美的解脫を得るやうに、男性と女性と相愛する時に心靈と肉體の偉大なる創造が行はるゝのである。

　現代の人々は何故に、此壯嚴なる、此深奧なるこ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の普遍なる大事實、大活力なる兩性の抱擁に敬虔の念を持たないのであろう、此大事實に向つて、無上の尊嚴を認めぬと謂ふならば、宇宙の何處にか尊嚴の大事實ある。

三　史上の回顧

若し私が希臘羅馬の女であつたなら、希臘羅馬を談ろであらう若し私が諾威の女であつたなら例のノラでも談ろであらうが、若し私が獨逸の女であつたなら例のマグダでも談ろうが、私は日本の女である、日本を考へて、初めて豐かな興趣が湧く、また私は平安朝や德川期の女でなく、現代の女であるからどうしても現代的に或は未來的にならねば面白く感じられない、然し現代を觀るまへに日本の過去を顧みやう。

私共の第一の誇なる天照大神は申すに及ばずさがむの小野に燃ゆる火のほなかに立ちて、とひし君はも、はりしの水に立つ波の波間を分けし橘姫、さては勇々しくもけなげなる神功皇后、時は咲く花の奈良の都に入りて、聖武天皇の愛后、光明皇后の藝術的の華麗にして、慈光洽き女性的偉業を忍んで

平安朝に入れば誠に女性の大發展期である、小野小町の數々の歌、犀利なる美的批評家の淸少納言、寫實文學者の紫式部、赤染衛門や和泉式部や日本女性の文學的特性を發揮して大なるものがある、殊に竹取物語のかぐや姫の女性の權威を月影さやけく天に打ち揭げたではないか、美的享樂の華やかな平安の時代、柳櫻をこきませて、女性はその才能を發揮した、源平時代を過ぎてからは全く男の歷史で戰の時代である勿論裏面には女性の嚴然たる價値を持續して居たが、段々壓迫の手は嚴になつた、淨土敎が女性的に安心せよ〳〵とすゝめる多くの親や夫を失つた戰の遺族はそれに走ります、一方には擊石火の如く閃電光に似たりとか殺人劍活人劍などと暗示して盛に悟れ悟れと、男性的な禪宗は敎へる戰の人は恣にそれに趨く、男は強く女は益々弱くなる偶には政子尼將軍や、賴朝を熱罵した靜のやうな痛快なのもあつたが、到底時代の勢には敵せない、北條足利と

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

過ぎて戰の人は女人を攻城取國の道具と心得た、戰國の武士は餘程人情に缺けて居る、妻や娘を餌にして富貴權勢をねらつた、但し今も此風は殘つて妻を換へるは疊を換へるよりも易いと嘯いて居る自然主義とデカダンとかの連中がある。桃山時代には淀君のやうなヒステリイ的の勝氣な女性もあつたが、これも秀吉の妾に過ぎない、御國と云ふ女歌舞伎も面白いが川原者の祖先である竹鋸を突破して十段目の明智光秀氏は女、童の知ることならずと時代精神を喝破した。德川期に入つては全く箱につめられたと同然、元祿享保の文藝的時代でも女性は、單に女性美として、櫻の花や、甘い酒と同一に物質として取扱はれた、僅に俳句の小さき天地を開いたり、遊廓と云ふ一境に些やかな俠と云ふのを發揮したり、心中と云ふのに時代の繫縛を斷つて、あの世と云ふ世に道行をしたりなどして、僅に中心の白熱を冷やして居た、中には大雅室と玉瀾のやうな一對の夫婦もあつたが要するに神代と平安朝を除いては、女性の歷史は壓迫的奴隸史である、十九世紀に於ける自然科學の應用は交通を自在にして、閉鎖されたる日本の扉を打破つた私共は自由に快濶に女性の問題を批評し解決し得る時代に立つことを、過去の同性に同情しつゝ、自ら祝福の喜を禁じ得ない。

四、舞踊と聲樂

世界文明史に於て、女性が光彩を放つて居るのは其容色と、其藝術とに關してである、誰れであつたか、クレオパトラの鼻が今一吋低くかつたら、世界の歷史に大變動があつたとか云つたが藝術の上ではそんな天才は先づないやうだ、フイヂアスや、運慶や、ダ、ウインチや雪舟やの彫刻繪畫は女性に求められないが、古のサツポオ、近くはノリスチナ、ロセツテイ、ブラウニング夫人の詩、それから平安の女詩人や、其方面には一國が建てられて居る。音樂もベエトオフエンの天才に比すべき作曲的の天才はないが、然し聲樂殊にソプラノとしては女性の特伎であるかも知れぬ、ワグネルも其妻にして女優なるコシマの助けを得、現代の神秘作家メエテルリンクもその妻の女優なるが爲めに自己の創作を親しく他によつて味ふの悅樂を享けて居る、舞踊も亦女性の特伎で

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

あらう、團十郎の劇作動作は天下一品であるかも知れないが、私の誇りたいのは純粋な日本の舞踊である、日本の舞踊は世界に冠絶する優秀な藝術である、上流で西洋のダンスを歡迎して、何故日本のおどりを蔑視して居るのであらう、體育の上から云つてもダンスや體操は骨格のみの發達に有功であるが、舞踊に顔面神經の活躍、筋肉の柔軟、優美の氣持ちとが一致して所謂身語意三密相應、心靈の内薫がエキスプレスされる、精妙なる裸體美に衣裳と云ふ美術品を被せ日本特有の結髪美を凝らして、其運動の一擧手一投足が巧に調和したならば、それは束の間に現滅する無上の藝術ではあるまいか。

女性の特性は其最も適當であるべく見られる藝術に於てさへ、どうしても受動的たるを免れない、新しき言葉を用ゆれば完成的であると謂ひたい、男性の能動的な創造的な處を受けて、それにより多くの意義と光彩を添へる處に人間としての意義がありはしないか、生殖作用から考へても精蟲を受けて卵巣で完成する、男性の缺點は女性に依つて補はれる、二つの力に輕重はない、相反の兩性は相互に吸引する、男性は雄々しかれ、女性は優しかれ、此美と優美の調和に人生の至境が開かれる、私は斯樣に考へて女性に最も適した藝術は聲樂と舞踊であると云ふ總合藝術と稱する樂劇にして、如何に其の劇詩が傑作であつても、如何に其の曲譜が精妙であつても、聲樂と舞踊を通じなくては完全とはならぬ、之を完成するのは女性である、女性は宛ら肉體そのまゝ美のインカアネエションで、藝術の至境は女性の心靈と肉體とに依つて完成される。

五　あるものゝ憧憬

現代の女性は千古に比なき醒覺の曙に立つ、新らしき女性は徹底的解決を求める、不動の信仰を憧れる、官能的至樂に耽らんとする、現實に印した理想を追ふ、充實した生活を求める、獨立の職業を營まんとする、そして積る怨の男性に向つて反抗の角を生やして居る、かゝる憧憬、かゝる希望、かゝる態度に對して、現代の社會は之を危險と見て避けての

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

み居ていゝであらうか、之を至當と見て、讃すべきであらうか、現代の男子は醒覺せる女にとりて餘りに賤劣で汚れて居る、別に反抗などする必要はない節操なき現代の男子は殆ど無價値なやうな氣がする私は男性に向つて覺醒せよ、清淨の水に汝の汚れたる心身を洗へよと云ひたい、女學生の墮落を責める前にその誘惑の手を斷て、「罪なきもの之を打て」自ら恥る心があつたら中々に他を打つの勇はあるまい男子に一團の美肉とより外見られないと覺つた女がどうして、その庇保の下に立つを潔しとしやうぞ、自ら獨立の經濟を以て立ち、何等の期待も男子に置かぬと覺悟する、けれども之は永久の眞理ではない充實した生活は決して單獨で得らるゝものではない自由な空氣を一度吸うて官能的享樂を願ふ、理想なき享樂の追隨は放縱になつて了ふ、物に徹底するには經驗と實驗が必要で餘程心を引しめてかゝらぬと經驗の奴隷になつて了ふ、解決も信仰もその人の個的性格に從つて異るが、之を要するに、自己の全身全靈をそのうるほひに醮して了ふやうなあるものを求めて、その與へられざるに苦しんで居るのである、

七　未來の宗教

與へられざる全身全靈のうるほひとは白熱の戀である、私は已にこの白熱の洗禮を受けた戀より藝術へ戀より藝術へと進んで行く、相反兩性の二力の美的調和は宇宙を生み人間を生んだ、人生に於ける男女の美的調和は肉體的には健全な子孫を遺し、心靈的には藝術を産すそして私の神秘的直觀は新宗教の姿を描く、未來の宗教は藝術的宗教でその救は美的解脫である、私の內部生命は今秘密の儀軌に依つて、技藝天女の法を辿る、冥想裡に入つた私のイマジネエシヨンは時に大和の國の秋篠を逍遙ふのである、寂しき偶像、なつかしき技藝、天女よ、御身の日はやがて來る、新宗教の榮光あるその曙!!

我の發展

相馬黒光

今から何年位前でしたろふか、何でも女學雜誌が未元氣で居つた時分でした、靑柳有美先生が自ら惡魔の子と名のりをあげて極力女性の暗黑面を指摘し解剖しては世人に晒らけ出し以て私かに會心の笑みを洩らして居られる時でしたか私はソレが鳥渡癪に障つたので或はみづから反抗的態度を取り先生に戈先を向ける樣になりました、今の所謂新しい女と云はるゝ方にも劣らぬ程自分丈深刻がつた皮肉と罵倒とを以て盛んに應戰したのでした。當時は無遠慮な不貞腐つた事を申す女は餘りありませんので一部の方々からは、面白半分に喝采と聲援を添へてもらひましたが、又一部からは自分の放つた矢に幾層倍した毒を持つた攻擊の矢を酬はれました。或る男の方などは手紙で「お前の如き女は吉原のおはぐろどぶにでも入つてくたばつてしまへ」なんて云はれたこともありました。

此種の筆戰は數年に亘て續けましたが、結局先方はどうか分りませんが、尠くも私丈には何等獲得したものは一つもなく、否多大の損失を招きました、殆んど精神的の破產でした、私が躍起となつて（たとひ面白半分の戲れにしても）わめけばわめく丈、內容がゼロに成つて行くのに心附きましたから、私は戈を治めて默してしまつたのです。頭腦が冷えるに從ひ餘りに私の言論は不謹愼で馬鹿氣て居たと思ひました。

シエークスピーヤの「奸婦馴し」の例などを取つて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

男の意久地ないのを冷笑したなどは隨分稚氣を帶びて居たものです。女を自然と征服する丈の德と能力とを持てる男がないから奸婦が出來るので、元來女は筋骨逞ましい男の腕に抱擁された儘此身此心を任したい捧げ度い征服され度い同化され度いのが天性であるのに、此期待に適する男はメッタにぶつつからない、それで跳つ返へつたり脫線したりするのだと、斯う責任を男に負はして善い氣持になつて居ました。

此の如き己を知らぬ女には駄法螺吹き位の男が丁度好一對となるのでせふ、貧血で手足の冷めたいヒステリックの女性には瘠せ狼の樣な男が似合ます、自我の念の悉無な女は信念のない男に向つて文句を竝べる資格はない筈です、昔から、破れ鍋にとぢ蓋と申すではありませんか。

一體自覺とか覺醒とかいふ近來の流行語は如何なる事を意味して居るのでせふ?、男と對立して社會と家庭の上に權利を主張するのでせふか、文藝の舞臺上で、腕押しでも出來るといふのでせふか、それ共性慾の强弱を比較して見るといふことでせふか。私にはトント解らないのです。

社會は多の家庭の集合で家庭は夫婦から成立ち夫婦は又二つの箇人が寄つて一體となつたものです、故に其一箇の我は何であるか如何にすべきものかを解することは凡ての事、凡ての物の根源とならねばなりません、ですから我なければ何もありません、神さへもありません、神は生けるものの神なりとバイブルには明々白々に記してあります、夫程我なる物は尊重すべきものなのです、けれ共此自信の反面は謙遜であります、人に謙遜の心が失せたならばモー進步の見込はありません墮落する計りです、我とは大海の一滴よりも小さきもの、みぢめなもので半文の價もないものである、誇りとして居た極めて淺薄な知識形式にとらはれた道德、唯一の逃家とした

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

宗教、之等は我をば却て神より遠ざけるとに助力して來た樣なものであつたとの一念に至れば今迄の僞多き我を投出して、天を仰いて「罪より我を放たんものは誰ぞや」と號叫するより外には仕方がなくなるのです、之れが卽ち覺醒に至る第一步ではありますまいか。

己が罪を知るに至れば他人の罪に對して寬大になります、而して自分が凡ての責任を負ふことにもなります、責任を負へば己の重荷は却而輕くなります、自分を開放してくれます、自由を得さしてくれます、自由も開放も皆な我心の內にあるのです、他に向つて求めるのは愚劣の極であります。

靑い酒赤い酒を飮む若い女達を鞭つ前に中年の私を叱つて被下い、訓誡して被下い、ある人達は私が印して來た足跡を追うて居ます、私は情死こそ遂行は致しませなんだが漫性的自殺者であります。

又矯風廢娼の運動を起す前に夫婦間の濫淫、强姦を改めねばなりません、演說會をするよりも雜誌を書よりも先づ第一に我の發展を計るのが焦眉の急であります、否斯んな長廣舌を弄するのがそも〳〵間違ひだと思ひます。

〰〰〰〰〰〰〰〰

拜呈未だ御目にかゝらず候へ共、道の爲、御連中樣御努力の程敬意を表し候、御會每に御演說の妨害者ある樣子、これは決して御心に御かけなきやうくれ〳〵も願ひ候、人正しき事を爲すには妨害侮蔑、これを必ず甘んじて受けて進むべき者に候、君子たる者は侮辱を受けるべきものだと云意味のと、論語にもありと記憶いたし候、オーレリアスは「汝の正しき生活に對する侮蔑を忍ぶ程高き行無し」と申し候、何卒〳〵この御覺悟にて憤らず怒らず、侮られ、輕んぜられ、鞭たれつゝ、ドシ〳〵御進みの程願上候、先般の新聞の記事を讀み老婆心ながら申上候

六日　　沼波瓊音

宮崎光子樣

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

婦人の生命

中島俊子

此頃は、新らしい女とか、又覺めたる女とか、色々な御婦人が御座います樣ですが、私共もあまり古びた方の女では御ざいません、それかといつて、五色の酒を呷りながら文藝を批判し、或は青樓に登つて一時の快樂を貪り、或は煙草をくゆらしながら人生を談じ、か〻る事を以て得々としてをる樣な、所謂新らしい女では御ざいません。我がま〻放埒を以て、人生の第一義と心得てをらる〻樣な御婦人に、眞に新らしい女とか、眞に覺めたる女とかいふ意義が解せられましようか、其刹那〳〵の氣分に應じ、云爲行動する樣な御婦人は、我ま〻放埒より出たる行爲ではありますまいか。

男子の方が、女子教育を攻擊さる〻のに、學問は出來ても、御飯の炊き樣を知らぬと云ふ樣な事は聞きますが、私は、御飯の炊き方のみを知つてをる婦人が、どれほど役に立つかを疑ひます、僅かに一家族の食べるための飯を炊き、僅かに家族の著るための衣服を縫ひ、又姑の機嫌を上手に取り、唯之だけを以て、婦人の能事終れりとしたものでは御ざいません、只これだけで、婦人の務めが立派にすんだものとすれば、婦人の務といふものは實に簡單なもので、何の價値もないものと考へます、只か〻る事を以て、汲々としてをる婦人は、大正の今日どれ程の役に立つか、私はもつと度胸のある太つ腹の、もつと高尚な理想のある、大國民的婦人が必要だと思ひます、一體婦人が男子から虐めらる〻といふのは、理想が低いからでは有りますまいか、目的が少さいからではありますまいか、例へば男子の方は、國家とか、社會とか云つて、人類社會の爲めに活動してをらる〻のに、婦人の多くは、三越とか、白木屋とかに氣を取られ、無益な事柄に苦心をして、をらるると思ひます、もし私共婦人が、眞に人格を養成し、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

男子に向つて、多少ほこるべき理想を有せんとするならば、三越や白木屋を去つて、衣服などは之を奴隷とし、金錢は召し使として、婦人の眞の力を發揮せねばなりません、直接社會に働く事の出來る婦人は、大に力を出して、遠慮なく社會人類のために働き、直接社會に働らく事の出來ぬ婦人は、夫の事業を完成さして、大に公益を計らねばなりません。

ぢつと世の中を見てみまするに、多くは婦人の意氣地のないために、自信のないために、勇氣のないために、あたら五尺の男子が、一生爲すこともなく終る方が御ざいます、例へば、茲に大望有る男子が御ざいまして、自分の目的のためならば、生命でもなげうつだけの決心があつても、之につれそう婦人がそんな事して貰つては、今まで通りに定つた收入もなくなるし、昨日までの奥樣が、今日は魚屋青物屋の前に立たねばならず、金の指輪に代はるにひゞアカギレを以てせねばならずと云つた樣な、只自分一個人のつまらぬ虚榮とか、我まゝから打算して、夫に泣きつく、他人相手ならば、腕力にかけても自分の決心をやり通す男子も、妻に泣きつかれては割合に弱いもので御ざいます、それだから此處です、唯徒らに家事にのみ齷齪とせず、夫の事業と、生死を共にする決心がなくてはなりません、事業のためならば、質屋の暖簾もくゞらねばならず、目的のためならば借金取のいゝわけもせねばなりませんでせう、場合に依つては、車も引き、銃を肩にし、刀もひつさげるだけの覺悟がなくてはなりません、それでこそ眞に新らしい、眞に覺めたる女と云ふ事が出來ます、妻たり、母たる事も知らず、まだ世の中の眞相も伺ひ得ないで、人生がどうの、婦人の自由がどうのと、一個の少さな胸で、我まゝを希望する樣な婦人が御ざいましては、私共婦人に取りましては、實に殘念千萬な事で、婦人全體の恥辱かと思ひます。要するに、婦人は天職として、どうしても人の妻となり、母となつて、婦人獨特の力を發揮せねばなりません、即ち時勢に協うたる社會的良妻賢母となる事は、婦人の本分かと考へます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

神武天皇以來の大問題

訪問

塚原澁柿園

先生はお年は六十六歳だと仰せらるゝが、一寸お話を伺ふと、五十ばかりとしか思はれません、これは思想界に立つて常に研究を進めつゝゐらるゝからで、讀書、知識といふものゝ思想は若きものと思ひました。以下は先生の御話を私が筆記したので、文責は私にあるのです。(四川文子)

私の婦人問題に對する希望を云へば、精神と肉體と共に高めたいと思ふにあるのです。徒らに大言壯語、理論にのみ走るのは面白くない、事理共に高まつて欲しい、寧ろ精神より物質の方が先きかと思ふ。

私の主義は恒産なきものは恒心なしであるから、婦人でも獨立して食べる丈の事はして欲しい。昨今科學的教育の發達した結果、女事務員などが増へ、女が獨立した職業をする樣になつたのは結構だと思ふ。良妻賢母と云つてもたゞ家の事をする丈では面白くない、内助丈けでなく、技藝の上からも助け合つて行きたいと思ふ。私が婦人問題を實地問題としてソンナ風に考へ出したのは、今より四十六年前からです。維新の際に靜岡に脱走した時、祿に離れた武士が頻々として夫婦親子枕を並べて餓死した、悲惨な狀態を目前に見て熟々考へた、成程精神は潔よく立派であるが、コンナ場合もし婦人に技藝知識があつたならば、ソンナみじめな事はあるまい、婦人も夫の厄介にならぬ樣になつて欲しい、鳥でも獸でも獨り食べるのに女ばかり一人食べて行かれぬと云ふ事はない、私は家内にも娘にもいつもソウ云つて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

居る。男優りにならぬ迄も女優りになつて欲しいと云つて居る。私は其方面に御發展を願ひたい。男子と競爭しようとする婦人は、男子の惡い、面白くない方面ばかりを眞似て居る樣だが、ソウでなく慈善宗敎、事業と云ふ方へ其の力を向けて下されば結構だと思ふ。

○

戀愛も結構だが單に戀愛と云ふと、直ぐ顏の奇麗とか肉の解放とか云ふ意味に解される、で敬愛と云ふ文字にでも代へたらドウかと思ふ。無論私は娘などにも本人の氣に入つた夫でなくてはならぬと云つて居る。先年亡くなつた、倅にも茶屋の女中と藝妓と、女郎とを除く外の女ならば誰れでも氣に入つたのを嫁にするがよいと云つて居た。

昔からよく仲人のない夫婦は長持しないと云ふ、女房がアナタと云ふ處はもつがオ前サンと云ふ處はもたないと云ふ、つまり人格とか藝術とかを敬愛するのでなくてはならぬと云ふ意味だらう。戀ふのは男女の間ばかりでない、君を戀ふものは忠となり、親を戀ふものは孝となるのであるが、戀愛と云ふ文字に一種のパチルスがついて居る、だから敬愛とか相愛とか云ふ文字に代へるとよいかと思ふ。

○

婦人問題は重大な事業で神武天皇以來初めての事である、秀吉公までは奧樣と妾との區別がなかつた、子供を產んだものが妻であつたのが、家康公になつて始めて正しくして閨門の亂をふせがれた、德川十五代の間閨門の問題がなかつた、これは天下を治められたより大なる功であると思ふ、併し家康公は婦人を閉込めた方だが此度はそれを解かうとするので大變な事業である。

○

釋迦が山から出て來て大乘を說かれても誰れにも分らぬので、一週間で止めて、極めて甘い地獄極樂

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

から說かれた、これは凡夫が聞いても甘いものであるが、佛教はそれで廣まつたのである、釋迦の口から出たのはソンな小乘のみである。釋迦の偉大なる佛教も甘い所から人心に這入つて居る。あまり初めから辛いものには人が寄りつかない。

○

明治の文學を開いたのに大に功勞のあるのは岸田吟香氏と讀賣新聞創立當時の某氏とであるが、兩氏とも女小供にも分る甘い文章をかいた、岸田氏は萬葉、古事記を悉く暗記して居られた位で其の他ヘボンの辭書にも與つて大に力あり又漢學の素養もあつた和漢洋に渡つた學問の力があつて、俗事に入り易い樣にくだいたから、岸田の名文が出來たのである、甘いから廣まつたのである。たとへば若般とおかめの樣なもので、前のはよい顏であるが、おかめの愛嬌を人は愛する樣なものである、又佛國革命もルーソーの民約論よりもボールテールの滑稽文學に負ふ所は多大である。

現代は文章より內容である、私は電車のツリ革に下つて讀んで理解さるゝものでなくてはならぬと思つて、講演體に改めた、然し又、分らないものを讀んで解つた顏する一種特別の人もある。

又私は文藝としては惡いかも知れぬが、自己を書くもよいが他人の慰安、他人の向上をも考へたいと思ふ、自己の事をかいたものを見て啓發するのは立派な學問のある人である、自分より學問のない人の友人になりたい、慰安向上の友人になりたい、個人主義でも自利利他が大事で、人を利するのが自分の利になる、福澤先生の如く自分も自分を大事にするから、人の自由をさまたげないと云ふ古人の個人主義であつて欲しい、今日の人の樣に人はどうでも自分さへ都合がよければよいと云ふはあまり面白くないと思ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

二十世紀の問題は婦人問題

内ケ崎作三郎

宇宙の生命は卽ち人類の生命である、婦人は男子に生命を與へ、男子は婦人の其の生命を保護すべき任務を帶びて居る、婦人問題も此の婦人の生命を豐富にする爲めに努めてもらひたい。

今までの宗敎は人生とは沒交涉であつた。宇宙と言ひ、神と言ふも人間其のものゝ實際生活とはあまり懸隔があり過ぎた、で之れから新らしき敎義や、解釋の唱へらるゝは自然の要求であろうと思ふ。

私は女尊男卑や、男尊女卑の何れでもなく男尊、女尊を唱へたい、我が日本の伊邪那伎、伊邪那美の兩神は卽ち此の二尊主義である、此の二尊主義を大いに主張せねばならぬ。

歐米は中世紀武士道から來た所謂ナイトの遺風で表面女尊男卑のやうに見えるが決してそうではなく弱者を援けてやると言ふ意味で手を握つてやつたり其の他の保護をして居るので、あくまでも女は弱者として待遇され、世界の何處にも根本的にどうしても男子と同等に認められて居ないのである、又外國では男女の交際が自由のやうに思はれて居るが英國のオクスフォールド大學では女一人の訪問は許されない、他に男子の同伴者が無い限り單獨の婦人訪問は斷じて出來ぬことになつて居る、ウエスコンシン大學では男女の混合敎育を行つて居ても失策は無いそうであるが、シカゴ大學では折り〳〵醜聞が傳られて居る、兎に角、男女をあまり區別せずに、互に理解し合ふやうな、文明的の男女交際が出來れば、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

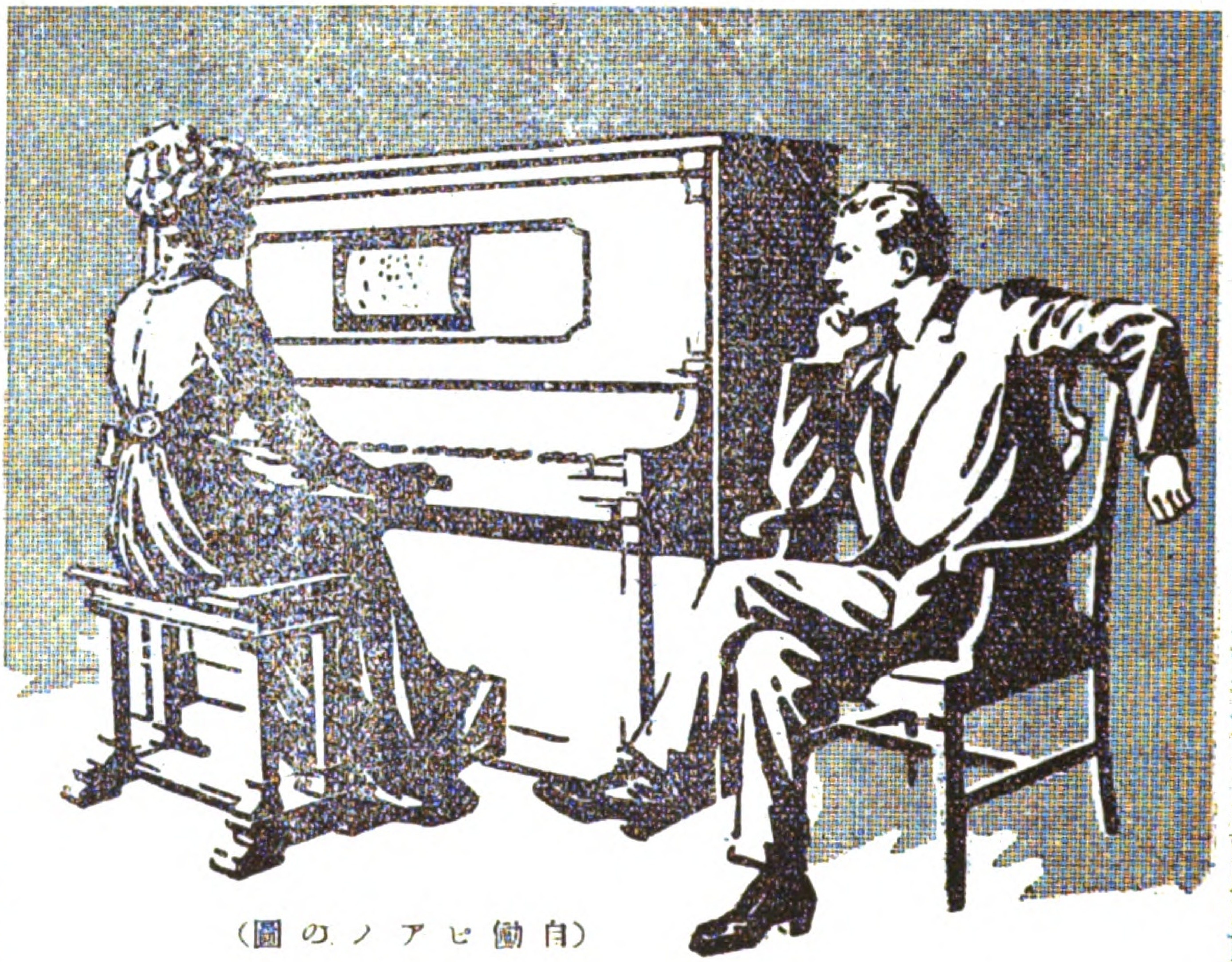
失策などは反つて起らないで、理想的な男女の結合が出來ると思ふ、何分今日では社會が惡いのである近頃の中學生の中には驚くべき保守黨がある、此等はある動機が社會の風潮となつて居るのに感染されたのであろう、一般に社會の空氣から改めなければ何事も難かしい。

目下英國に於て盛に行はれて居る婦人參政權運動でも或る急激派の婦人等が先頭反對黨の大臣を市中にて洋傘を以て袋叩きにしたなど隨分亂暴極まる態度に出て居るが其の根本の精神を掬んでやらねばならぬ。

世界の何處にも今日婦人が獨立して行くと言ふ上に何程の困難があるであろう　婦人が生活の爲に店員などになつても、給料は食費にやつと足りる丈け假りに男子の店員なり、重役なりが一所に晩餐でもしやうと促がす場合、若し之を斥けて應じなかつたならば、迫害されたり職を奪はれたりする憂がある、それに之を承諾すれば、そんな憂もない上に物質上の得策となるからして、彼等は男子に貞操を破られて、遂には、生活の容易き路を撰ぶやうになる斯うして賣春婦は世界の至る所にます／＼多くなるばかりである、彼等は獨立して子供を育てることが出來ない爲め之に伴ふ幾多のかくれたる犯罪が行はれつゝあるかもしれない、此等は凡て婦人が男子と同等の報酬を社會から受けられぬ爲め、獨立して行かれぬ所から起る大なる悲劇である。

彼の婦人參政權運動なども、此の婦人の生命を保護せん爲に起つたので、同性に對する衷心の同情が其の基因となつて居るのであるから、新神學の大家キャンベル氏は「婦人運動は、靈的運動で、即ち宗教運動である」と言つて居る、兎に角二十世紀の問題は婦人問題であろう、新眞婦人會は日本に於ける婦人運動の中心となつて居るから、大いに自重して先に言つたやうに婦人の生命を豐富にする事に努めて進んで行かれむことを望む。（かげろう記す）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA



（自働ピアノの圖）

お嫁入前後の心得

御婦人方の最も大切な時期は御嫁入の前後と思ひます、從つて御婦人として修むべきこと、學ぶべきこと、整ふべきこと、總て必要なことは皆この時に起るのであります。で、其内で最も進歩した、將來ためになる、今まで閑却されたる重要な婦德は、清新なるピアノ樂の素養であります。これは、令孃としても、夫人としても賢母としてもスヰート、ホームの爲め高尙な、教育的なもので、歐米人はこの百年來特にやかましく言つて發達し、今では流行になつた、日本でも近き將來に熾になると思ひます。

弊店では皆樣の御氣に召す舶來も和製もみな陳列してあります御覽下さい、キヤタログも御送りいたします

東京銀座　松本樂器合資會社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

東京市牛込區原町三丁目三十六番地

靜座法修養團

兼子式

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

●第參回新學期開講＝會員大募集（目下入會者には特典あり）

文章は經國の大業不朽の盛事也

普通作文速成講義

男子須らく學ばざる可らず、然かのみならず文章は能く其の人の人格を語り才智學力を表現す、故に商人は其通信文を以て相手の人物を判斷し、商務の整否を看破す、又求職者の書信にして一の破格なるものあらんか、彼が如何なる履歷あるにもせよ、採用者は必ず惡き意味に於て反省すべし、實にこれ其の人の長き生涯を通じての一大弱點一大損失にあらずや。即ち活社會に志あるもの益々文章を學ぶの要を見る。

本講義錄の**特色**は**徹頭徹尾實際的**にして平易に、讀んで必ず理解して毎日の用に供せしめ、且つ**形式內容**共に現代的なるが故に**眞に生きたる文章習練**は本講義錄に依るの外に道なからん。　今や全部完結して基礎硬固、乞ふ先づ端書一枚を費して見本を請求せよ。

東京小石川大塚上町　**作文速成學會**　振替東京二二八〇番

■最新刊■

白頭巾 樋口麗陽氏著 岡本一平氏装幀

新しき女の裏面

□現今社會の大問題として喧噪せられつゝある所謂『新しき女』の裏面を最も眞面目に最も露骨に解剖し抉摘し且諸先輩の之に對する意見解釋を批評論駁し鋭利の筆法を以て火を發するが如き熱烈の語を驅り來つて茲に揮然として現はる。

■四六版洋装美本
■本文三百餘頁
■口繪寫眞版數葉入
■定價金五十五錢
■郵税金八錢

發行所

東京淺草區新福井町一ノ一
振替東京六一三三番
池村松陽堂

東京淺草區下平右衛門町九
振替東京一九〇六五番
岡村盛花堂

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

血の香

木村駒子

私のこゝろに鎖つけ、
　絶えず引いてるものがある。
私のこゝろに火をつけて、
　絶えず燃してるものがある。
私のこゝろの戸を閉ぢて、
　絶えず押してるものがある。

何であろう！そは　何であろう。
　折り〳〵私は、端知らぬ、
大空の中を、彼方此方と、
　思ふがまゝに飛びまはり、
むらがり来る、美鳥と、
　追ひつ、追はれし夢を見る。
また、ある時は、堆たかき、
　虚榮の雑木の燒かるゝを、
戰士のやうな、誇りもて、
　歎しい、淋しい、痛快な。
微笑を漏らしたこともある。
　外に錠ある、現世は、
内から押しても、開き難い、
　長い月日に、築かれし、
かため嚴しい、城の中、
　女の住家は、そこにある、
こゝろの鎖の、はなれなば、
　心の火焔の消えもせば、
こゝろの扉の、ひらきなば、
　浮世は、戀の花園に、
若き血の香の　たゞよはむ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

思想と實生活

宮崎光子

ある種の人々は、思想問題と云へば餘計なことのやうに思はれて、あまり重きを置かれて居ないやうであります、人間の生活には、有つても無くてもよいやうな取扱ひをされて居る向きが往々あります。

思想問題は、實際問題と交渉がないなどと、一口に云つてしまへば、それまでゞありますが、そも〱人類の發達進歩し來つた徑路を攻究しますと、有ゆる人生上の事業と云ふ事業は、始め誰かの考へに浮んだ思想が基となつて、それが哲學ともなり、藝術ともなり、宗敎ともなり、或は社會の革命ともなつたり、改良となつたり、科學工藝上の發明となつたり、發見となつたりして、人生上の事實となりまして、一歩は一歩と、種々複雜なる文明の色彩を帶び來つたのであります。

若し私たちの生活から、考へること、則ち思想と云ふものを取去りましたならば、向上も、進歩も止まつて終つて、人間も、他の動物と擇む處がなくなつて了ふのであります。人間が動物の如き狀態で生存すると云ふことが、人生の目的でもあり、意義でもありますならば、何を苦んで勉強したり、研究したり、修養したり、さま〲な苦心や努力をするのでありませう、人間本然の示す處は、たとひ無意識ながらにせよ、絶えず閃めいて居るのは、我々の奧深い思想の生活ではありますまいか、人間の人間たる價値は、深い高い思想の煥發するところに有るのであります。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

小供を立派に教育いたしまして、一人前の人格となすのが終生の目的である如く、我れ自身も、人格の向上發揮を希ふのが、われ〳〵の不斷の要求であります、更らに進んで人を益し、世を益しやうと努力することは、將に人類本來の叫びではありますまいか。

思想の低い幼稚な人には、高尚なる思想の意味が解らないから、猫に小判と同然、其難有い妙趣が味へない、それでありますから、愈々思想問題など無視して顧みない事にして居りますが、そう云ふ人は、淺薄で、固陋で、我儘で話にならないのであります、甚しきは世の中が何うならうと、社會の傾向が何うならうと、直接自分に關係のない事は、一向かまはないで平氣なものであります、そのくせ自分の利害得失となつて來ると、一寸したことでも大變心配して大騒ぎして、あれよこれよと轉動する樣は誠に笑止の沙汰であります、私たちは利害のために生れたのでも、得失のために生れたのでもありませぬ、實に人の中なる人とならむため生れて居るのでありませう、それでありますから自分一箇の利害得失の爲にのみあわて騒ぐと云ふことは、人間の本性を汚がすものであります、甚しきは、利害の爲に、兼ての主義も、主張も左右するやうな變節漢を見るに至りましては、牛や馬などが何と云うて笑つて居るでありませうか。

世の中に沒義道だの我利主義ほど、不經濟で、悲慘な事實をつくるものはありますまい、自分の慾を滿たさむ爲に、人の權利までも横領したり、他人を苦しめたり、他人を壓迫して、有ゆる我慾を縦にして居ります、そう云ふ間違つた考へのために、折角授かつた人間の眞價をゼロにして了つて、自ら獸にも劣つた生活を希うて墮落して了つて居ることを、何とも思はない無神經さ加減は、呆れ返へるばかりであります。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

人間の眞價を踏みにじつて成功したとか、手腕家とか飽くことを知らぬ野獸の戰ひを續けて、一種の權威かの如く思つて居る横暴惡逆は、幾多の人をして泣かしめたのでありませうか、何うして斯くまで罪惡が跋扈するのでありませうか、今の世に於て、好や正義の力の振はないのは、惡が強いのでは決してありませぬ、勇猛なる善人が乏しい爲であります、殊に婦人の善に於ける勇猛心が乏しいからであります、惡人と云ふものゝ心情が、どれほどまでに毒々しいものであるかを思ふと、實に身の毛もよだちまして、惡を爲す惡人の胸中が、いつも不安の狀態でありまして、面つきにも似ず內心は、戰々競々として怖れをのゝいて居るのであります、斯んな者が強からう筈はありませんが、善を爲す善人が臆病なる爲に、善に對する覺悟が薄弱なる爲に、見す〳〵惡人の跳梁に任せねばならぬ羽目となるのであります、如何に人間の愚痴とは云へ我の本體を見ずして、わざ〳〵自分本來の精神を殺してまでも、無理な、不條理な、道德に反した罪惡の生活をして居るのは、人生にこれほど不經濟な不都合がありませうか、このやうな弊害は、卑屈な、淺薄な、小さな我に囚はれて、大事な自分を、束縛して、とぢこめて人間性を滅却した自暴自棄であります、墮落であります。

それで私達は大勇猛心を起して以て、斯んな矛盾な轉倒した生活から救つてやりますのは、優しい婦人の仕事として最も適切でありませう、美しい情愛が子供の心身を發育させ、完成せしめる樣に、人間の價値を覺つて一旦自覺しますと、相應な勇氣も出て參ります、それが段々に進んで人格が強くもなりますし、高くもなりまするし、深くもなりますから、この人格の威力を以て、惡人を征服し感化しなければなりませぬ、斯ういふ心持になりますと、自分の一身一家の爲に、他を犧牲にするやうな事は出來なくなりまして、いつの間にか人の身の上とか、社會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の人々の上を思ふやうになります、虚飾とか虚榮とかつまらぬことに煩はされなくなりまして、仕事を致しますにも、交際を致しますにも、非常に手輕で重寶で、輕便で、また誠に精神にも物質にも經濟であります。自分のことをおいて、人のこと社會のことばかり思ふやうになりますならば、自分のことが全くお留守になつて自分の生活はなくなる樣に思ふ人もありませうが、決してそうでありません、人の爲め世の爲に自分の事を忘れるのが、本統の自分の生活であります、自分の爲に〳〵とやつて行きますのは、實は自分を無くするのでありまして、眞に自分に生くると云ふ事は自分の身命を抛つまでに至ることであります、自分の身命を棄て〻抛つたら、自分と云ふものは無くなるかと云ふに、そこに眞の永遠の生命があるのであります、乃木大將は自殺の爲に決して無くなつたのではありませぬ、自殺の爲に乃木大將は永遠に生きられたものであります、この意味が、了解されて擴張されますと、人間の面目が躍如として參りまして佛の慈悲も、神の博愛も、そこに認められ發揮されるのであります。

利害得失に關せず、ひたすらに正義人道を踏むで毀譽褒貶を超脱した、眞底からの本心の叫ぶま〻に勇往邁進することが出來てこそ、實に自覺した醒めた、充實した生活ではありますまいか、人生の有ゆる生活の中で、これほど確かな、高尙な、美はしい、活き〳〵した生活がありませうか。

御覽なさい、天地、宇宙、宏大無邊の搖籃は、我々を守りまして、直に心靈の大自由を與へるではありませんか、一度び思想を高きに馳せまして、思ひを茲に深ふしましたならば、萬象悉く眼前にせまつて、我に語るが如く、賴むが如く、慰むるが如く、更らに讃美するが如く、無言の宇宙意志は、我等人間の偉大を待つこと、如何ばかりに熱切でありませうか。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

直覺性に富んだ女性は、天地を透うて、更らに自己潛在の心靈を開きまして、未だ曾て發揮せられない、有ゆる智識と能力の上に、徹底したる靈覺を浴せて以て、我等の人生をして愈々豐富に潤ふす可きものであります。

新眞婦人會へ

眞に、眞に祝す可きかな
新たなる喜悅もて
新たなる光をもて
新たなる道をもて
御身等は進まむとす
喜ぶ可き哉
火の野を男々しく進む
ジエグフリドの勇しきこともて
御身等はゆく
よしなき衆愚の叫び何かあらむ

彼等は旦に雨降れば鳴く
哀れ意氣なき蛙のみ
笑ふ可きかな
御身等オーロラの如く
新たなる曙光もて暗き空を馳せむとす
進めよ進めよ
闇に哀れコンベンションの鞭に
泣き苦しむ御身等の友を
朋を溫き光もて包み
光輝ある生に向かはしめよ
進めよ進めよ
旭光の空に臨むが如く
何者をも貫きて
光ある生へ進み給へ、…………

是拙き詩我が敬愛せる新眞婦人會の諸子に捧ぐ

演說會の翌日

神田

S A 生

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

日本女性史（二）

新眞婦人社編

二　王朝時代の女

前號に於て逃べた通り、上古に於ては、男女は全く平等であつた、女だからコレは出來ぬアレも出來ぬと云ふことは全くなかつた、全く其の人の力次第で、單に女に生れたと云ふことが少しも其人の力量發揮の妨害とはならなんだ。けれども儒教や佛教が這入て來るに從て、男女の關係が次第に違て來た。即ち儒教は牝雞の晨をつくるに譬へて痛く女子の外務に從ふことを抑壓し、佛教も亦た女人は罪業深き者とて、一概に女を排斥するので、女子は次第に社會の表面から退くことになつた。

大寶令を見ると、七去の規定があつて、其の第一に口舌と云うて、おしやべりな女は離縁してもよいと云ふことになつて居る。之れを見ても大寶令の出る頃、既に女の位地が、上古の全く自由なりしに比して大に窮屈になつて居たことが分る（大寶令は文武天皇の大寶二年に出たもので、今より千二百十一年前の法律である）。下て藤原氏の盛時に至ては、女は外事に預からず、常に家内に垂れ込めてのみ居るを以て美德と爲すに至つて居た。

さりながら尙ほ女の位地は、後世に於ての如く窮屈なものでなく、女子に學問をするの自由もあつたし、男子と交際するの自由もあつた。例へば歌會、詩會、詩歌會、花會、扇會、謎會、謠會などが盛んに行はれて、之れが男女競爭して其の才を研くの媒となつて居た。であるから奈良朝、平安朝の歷史を讀むものは、何人も才女の輩出と云ふことが此の時代の特色であることに氣付かずして止むことが出

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

來ぬ。
陰から政治を助けて大力量を現された光明皇后、檀林皇后、正子内親王、和氣清麿の姉法均などから紫式部、和泉式部、清少納言等不朽の作を殘した才媛に至るまでを數へると、奈良、平安の兩朝の歷史は誠に女で色どらるゝ時代と云つて宜しからうと思はれる。

尤も戀愛が自由で、男女交際が自由で堂々たる大臣大將も平氣で戀歌を詠むと云ふ時代で、堀河帝の時に於ては、艶書合すら行はれた程であつたから、弊害を云へば、後世から此の時代は淫奔であつたと云はれても仕方のない樣な點もある。

(註) 堀河帝の時、禁裏にて殿上人の歌よみ達に仰せて宮仕への女房達に懸想の歌をよみて遣はすべきよし勅せられたることありて銘々色々の風流の紙どもに戀の歌を書きて贈られ、又女房達より其返り言をせさせ給へり、是を艶書合と云ふと、歷史に書かれてある。

福澤先生は其の日本婦人論の中に於て、此の時代を許して

淫奔を云々するものあれど、之れは畢竟時相の弊害のみを見ての心配に過ぎず、細に内情を視察するときは、其の淫奔中、自から活潑の氣象を存して後世の孱弱婦人が深窓に幽閉せらるゝものに比すれば、心身共に屈強なりしこと疑もなき道理にして、當時の一大美事と云はざるを得ず。

と云はれてあるが、如何にも尤もな批評である。理想の時代が來れば、コウ云ふ弊害なしに男女の交際が自由に行はるゝ樣になることであらう。

三 鎌倉時代の女

女の位地が次第に窮屈になつたことは既に之れを述べたが、鎌倉時代になると、ソレが益々窮屈なることゝなつて來た。男の權力がいよいよ强大になつて女は次第に壓制さるゝことゝなつて來た。此の時代に出來た婦女訓を讀で見ると、頻りに念佛をスヽメ若し心憂くば直ちに出家せよとか、又既に十歲に至れば奥を出づる勿れとか云ふ樣なことを說いてある。此の文字からでも、當時の女の位地と云ふもの

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

が充分に想像さるゝが、更に有力に當時の女の位地を談るものは、緣切寺の事蹟である。

鎌倉松ケ岡の東慶寺は、頼朝の叔母で尼様になつた人の開基にかゝるものであるが、俗に緣切寺と云はれて居る。何せ緣切寺と云はるゝに至つたかと云ふに、此の寺には不和合の夫婦の緣を切ることを掌るの特權があつて、若し夫の邪見無道の振舞に堪へかねた女が、奔り來りて此寺に投ずれば、夫追跡し來たるとも如何ともすることが出來なかつたからである。而して此の寺へ逃げ込んだ女は、三年間（後に二年となつた）寺で佛事の修業をして仕舞へば其の年限後は寺を出て何所でも勝手に嫁することが出來たのであつた。此の寺の寺法は始めから不和合な夫婦の緣を切ることにあつたが、此の寺の寺法が眞に大に行はるゝに至りしは、北條時宗の夫人覺山禪尼が大に盡力してから後であつたと云ふことである

此の寺が緣切の特權を得んが爲めに幕府へ出した願書の中に

其夫邪見無道の振舞多く、愛情も絶え果て狹き心に差し迫り身を過つも折々見聞および、不便の事に候間云々

とある事に見ても、又、他の記錄に

既に其妻妾が下駄片足にても、當寺の門内に投げ込めば、其妻妾に小指一本かける事の出來ざる法なり

とあるに見ても、當時の女の位地は、既にモウ窮屈と云ふ所を通り越して、壓制さるゝと云ふ所へ、行て居たことが分る。

さて男の側から云へば、女をして斯かる位地に滿足せしむる爲めに、壓制と思はず心地よく男に從はしむる爲めに、一種の思想を注入するの必要があつた。之れ鎌倉時代になつて、今までなかつた貞女道が俄かに唱へられ出した所以である。

而して此の貞女道が唱へ出されて後は、女の思想は凡て貞操と云ふことを其の中心とするに至つて、女は大抵引込主義になり、萬一女の勇氣、意氣の現はるゝ場合ありとすれば、开はたゞ貞女道の上に立つて、戰ふ時のみであつた。鎌倉時代及び其後に於ては、評判の女と云へば大抵貞女に限られて居る樣である。（未完）

行く春

小口みち子

ゆく春の袂おさへてさくらなき
李もなけば青葉もなきぬ

藤の花心すゞますなく／＼も
嫁ぎ行く夜の姿のやうに

さめ／＼となけば涙にきよめられ
忽ち胸は祭壇となる

誘惑と女と花と蜜蜂と
いとひそやかにほゝえむは誰ぞ

麓にて花つみながら泣く男
風雨と峯にたゝかふ女

曳く髪の重きにたえず刻々に
沈み行く我が悲しき女

悲しみはやよひの節句に桃の花
いために降りし淡雪と消ゆ

いかにして女は終に救はるゝ
悲しからずや知らずと答ふ

操といふこれを命にかすけくも
生きよと云ふや露に等しき

遊女といけにへ数多奉る
悲しきにへをなほ奉る

葬らひの紙の細工の牡丹より
げにあはれなり女のわれら

檻の虎人害めじといかにして
云ひえらるゝや虎なる男

恥かしき事の餘りに多ければ
囚屋つくらむ蠶のやうに

人の母生みし子なれど己れなば
かぐや姫ともおもひてあれば

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

所感

小口みち子

歌の選をするやうにとのお話で、兎も角もお請けはいたしましたが、生來不勉强である私は歌を作る事に於ても努力をすると云ふやうなことはした事はなく、又しやうとも思ひませんでした。情が熱して興が湧いて來た時に出來るに任せて詠んで置く。かう云つたやうな事を長い間續けて來て、今も尙ほそう致して居りますから云ふ徑路を辿つて來た私は、皆さまのお歌を拜見して訂正をしたり又皆樣のために新らしく道を開くと云ふやうな事は此上なく不得手で御座います。

不勉强で努力をしないと云ふ事は素よりよろしくない事では御座いますが、つまらぬ虛榮虛名のために、何よりも貴重な自己の感情を僞つたり、徒らに三十一文字を意味もなく並列させたりして居る事に私の良心はたえがたき苦痛を覺えるのです。

自己の僞りなき感情を彼のエトナの火山が空に向つて火をふくやうに、少しの飾りも掩ふ所もなく思ひのまゝに表白をする。かう云つた意味に於て初めて鬼神をも泣かし得られる事となるのです。

假りにも歌の一つも詠んで見やうと云ふ程の方は一般の婦人の中でも幸福なる天分をもつて居られる方と私はおもひます故特に私は所感をのべて置きます。

從來は不勉强であつた私もこれからは眞自目に熱心に皆樣と共に進んで行きたいと切に思つて居ります。

和歌

一等　芝　青木露

いづくよりか朝の寢ざめに物ありて、潮のごとく推しよせて來る

二等　神田　中野壽恵

白き花なまあたゝかく吐息する垣根に立てば月おぼろなり

三等　小石川　小林登起

髮一すぢなぶる風だになき程のしづけき春の日はくれにけり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

選外佳作

ホロ〳〵と花散る窓にかたらひし君がみ聲の忘られぬかな　　前地　優花
新緑の陰に夢見る愛らしの戀まだ知らぬ小さき少女子
しと〳〵と五月雨ふりぬ思ふかな君とかたりし夕のまどを

群馬　夕花

つれ〳〵に學の窓にたちよりて戀しき父母の思はるゝ夕
こぞの春なき姉君の植えし花今年の蕾いぢらしきかな

神田　壽惠

涙する淋しき胸の谷すてゝ歡樂去るや花も散るなり
亂調のヴアヰオリンの音の夢さめぬ春の夜寒に君の戀しき
吾が戀は消えてあとなくなりにけり七彩及がく虹にやう似て

俳句

夏山茂子選

選者吟

美しく朝寝する人青簾

一等

鞍取りて馬の背さます若葉かな　　小島　英子

二等

櫻月夜物思ふ人のありやなし　　井原　珠子

三等

戸を立てゝ物賣る家や五月雨　　横川　浪子

選外佳作

梅の實の仄かに肥へて梅雨に入る　　河原　恒子
栁折りて、戀人の家見えにけり　　石山　照子
菖蒲湯に入りて冷たき萠黄かな　　芦田　靜子
金星の佐渡さし流る春夜かな　　馬場　蝶子
白牡丹蒔繪の盆に散る日かな　　村上　琴子
蛙啼く朧月夜を自炊かな　　山本　明子
葛の葉の裏の白さや青嵐　　松下　春子
小鮎賣つて入る下京の紅屋かな　　野村　豐子
卯の花に日の暮遲き垣根かな　　小林　松子
晝風呂の烟ほのかに二日灸　　片桐　潤子
夫を待つ女心や鮓なるゝ　　稻葉　茂子
菜の花や牛車に人の睡り行く　　鬼澤　延子
新しき銀杏の枝や風薫る　　吉原　富子
夏朝のよきもの琴の音に歩む　　梅山喜美子
繪日傘の蔭にお夏が姿かな　　大塚　秀子

談話室

離縁の場合

離縁などの場合には、現今の社會では、男子に都合よくて婦人に不利益であると思ふ。男子はアンナ女は仕方がないコリ〳〵したと吹聽するに拘はらず、婦人は忍んで、寧ろ耻ぢて何等も云はない。ソコで離縁は少しも男子の傷にはならないで、婦人の一生を埋める様なことになつて居る、私は離縁の場合に社會が婦人に同情し、又他の婦人は決してソンナ男子と結婚せぬと云ふ位に制裁をしたらばよいだらうと思ふ。（高野重三氏談）

女が無くなつたら ドウでしよう

私は群馬縣ですが上州は製糸業が盛な土地丈に、婦人の方が男子の勞働者よりも遙かに收入が多いので、婦人に自然に權力があります、だから馬鹿にされるのも馬鹿にされる丈け自分がつまらないからだと思ひます。能く女は男に養はれて居るのだからと云ふ人がありますが、女は男に養はれるやうに獨立する教育を受けなかつたから仕方がないのです、然し私など小供を澤山產んで、育てゝゐるからは、たゞ養はれて居るのではなからうと思ひます。これ迄の男子は男は女より偉いものと云ふ親の思想に養はれて來たから我儘なのです、產れ落るときから女の兒より男の兒を喜ぶのですもの、ソンなに馬鹿にして女がなくなつたらどうでしやう、その癖女を馬鹿にする男子ほど、女の必要な人です、私は小供を理想的に男の子も女の子も同じ尊いものだと云ふ考へで、同じ權利を與へて育てるつもりです、それが男の子の爲めですから。（某夫人）

嫁と姑

夫が遊んで歸りました時無上に腹が立つて、怒りますと、姑は側で、男は少しは遊びもしなければと却つて煽動する樣な態度に出るのです、だからいつも姑が來られると私は默つて了いましたが、或時かまはず怒つて怒つてものを打破つたりいたしました、すると姑も驚いて彼女は狂人だからソツとしておきなさい、私からもモー遊ばないからとなだめるからお前さんもあやまつて置くがよいと夫に申しました。（某夫人談）

出て行け！

出て行けと云ふ言葉は容易ならぬ言葉です私はズット以前に夫が一度、ソウ申しましたから、私は貴君が笑談に無意識に仰しやつたのなら許しますが、さもなければ決して許しませぬ、本氣に聞けば容易な事ではあり

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ませんからと、嚴談しましたの、ソレからはも一決して出て行けとは申さなくなりました、却つて此頃では病氣などされるよりはよいから何でも好きな樣にせよと申して居ります。（某夫人）

火にも燒けない或もの

奥村さんと愛國婦人會を起しました時は最初はたつた私と二人でおつたが、會員が十人出來た時に、千人會員を募らうと云つて一人で百人づゝ會員を拵へやうと相談が一決しました、一决はしたがさて千人の會員を募るとになるとがつかりする樣でしたが、奥村さんは私をソンな弱い事ではいけない〳〵と鞭撻して止まないから、仕方なく出かけ、藤澤、程ケ谷、横濱と說き廻つて、一人で七十人入會さして來ました、所が又印を押させよと云はれるのでまあ記名さす丈でも容易でなかつたのにと云へば、あなたは本當に馬鹿だ、ソンナ事でどうすると云つて奥村さんに叱り飛ばされました。又やう〳〵の事で印を取れば皆直ぐ郡長の功勞にして了ふのでした、何事も自分を捨てゝたゞ國の爲め、國の爲めと一途に此の事業が成功しさへすればよいとして働いたものでした。

私は常に申して居ります、私などは家庭と云ふものを破壞して來た片輪ものだから私に習つてはいけません〳〵と。そして其家庭破壞が皆私が惡い所より起つたものです、最初、飯田中將に嫁して間もなく、夫が出征しましたので。私は毎日日參して夫の無事を祈りました、所が鳥尾中將の申さるゝには、飯田の妻君はアンなに夫の身の上を心配して居ては病氣になる事であらう、少し信心するがよいとて、麹町上二番町の米田と云ふ人の佛敎の說敎所につれて行かれました、その時の說敎が佛敎は厭世敎だと思つて居ましたのに全くソウではない結構なお話でしたから、スツカリ信者になつて了ひました、その後夫は無事に歸つて參りましたが、夫は小供好きで小供が欲しくて〳〵仕方がないのに、私は業が深くて小供が出來ないので、妾をおいて下さいと云つても、ソレは〳〵嚴重な人でソレもしないので、私は自分で身を引いて尼となつたのです。

その後河野と結婚しましてからも奥村さんに引張られて家を外にばかりして居ましたので、マア別れればならぬ樣なとになりました併し、私は學問も何もありませんが、御陰で火にも燒けない水にも溺れない、ある確としたものを胸に持つて居るとの出來る樣になりました、今日ではお陰で佛敎の各宗ともの上つ方が信用して下さいますので、たゞ法の爲めかうして有難い〳〵で暮して居りますばかりで、これからは若いお方に是非して頂かなければなりません。先程も宮崎さんのあんな眞面目なお話をまぜかへしたりして、私は飛び出して行つて云はうかと思ひました。（和强樂堂第二回婦人雄辯會辯士控室にて河野せき子女史談）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

編輯局より

▲初號發行後日數もたゝぬに、皆樣から御奬勵やら御忠告の御手紙あまた頂きました。意外に反響の大なるは時代の要求であらうと存じます。

▲宮田脩先生より、貴社ます／＼御發展の御樣子乍陰慶賀まかり在候　また此度は雜誌御刊行相成小生へ迄御寄贈被下多謝仕候、願くはいよ／＼御奮鬪下され我國女性の覺醒に對し十二分の御寄與相煩し度切望仕候　先は御禮を兼れ右まで

▲塚原先生より（前略）貴誌のすべてを拜見仕候處、誠に御健氣の御思ひ立ち感服に堪えず候、老生も婦人問題は今より四十六年の以前なる明治維新の時より深く惱髓にしみ込ませられ其の以後は精神、物質の二方面より開發いたしもらひ度と種々勘考仕り居候（後略）

▲金澤啓助氏より　從來の婦人は道德方面に於ても非常な壓迫を受けたもので、戀愛の樣な美的なるものは夫婦の間には殆んど味はふ事の出來ないものと相場のきまつたものでした、近松などの作にしても、戀愛と云へば悉く不義はお家の禁制的なもので悲劇を生むの材料となつたものでした、從來の道德は眞善美を滿足に具備して居りませんものでした

▲名古屋歌路女史より（前略）御社の擧に贊するもの四五名中京の地に存在すること認められ度且つ今後の御隆盛の程心から祈上候（後略）

▲野村樣より（前略）小生は皆樣の御熱心と奮發心とには非常なる贊成をなすもの、世間の愚評をなすものは浮調子の淺薄なる觀察によるものと存じ居り候、所論に假令過度の所あるも御熱心と眞心より出る自信とは充分之を償ひて余りありと存じ居り候（後略）

▲樋口綠子樣より　皆樣御機嫌よく我等同性の爲め御盡力下され辱なふ存ぜられ候

▲其他小石川の佐藤樣　千駄ケ谷の神谷樣外四五名の方は非常に長い卷紙七尺もあるやうなのやペンがきの四五枚もある樣な御手紙で御批評下され、多大の參考と教訓を受けましたことを深謝いたします

▲田村俊子樣より　初號は御約束にそむき申譯無之候、この度は六月號約束の執筆三四これあり到底お望みに應じかね候に付何共申譯なき次第ながらお斷り申上候　惡しからず御承知願上度、三號には何か必らずお送りいたすべく候

▲木村駒子樣より　觀自在宗祖の代理で十一日午後二時半ので此方へ參りました、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

當院主明峰氏は院内へ子守學校と、町はずれの向町裏に不良少年の感化事業とをやつて居られます二三ヶ月前まで出獄人の世話もして居られたそうで大そう研究になる話しを承りました

▲同人三人の合著『新らしき女の行くべき道』は十日ばかりにして再版さるゝ事となりました

▲小口さんの『つげの櫛』(小説)と、有田さんの『手紙に表はれた若い女の心』とは、紙數の都合で、遺憾ながら次號へ廻はることとなりしました茲に豫告しておきます

第二婦人雄辯會

五月四日午後一時より、和強樂堂で第二回婦人雄辯會を開きました。來會者四百餘名、第一回よりは十ゝ少數なりしも、却〳〵の盛會でした。

開會の辭(宮崎光子)△藝術と婦人(木村駒子)△男女交際論(西川文子)△琵琶(大村錦波)△人としての女性(宮崎光子)の順序で演了し、四時半に散會しました。

此の會に就ての新聞の記事中には、隨分眞面目とは思へぬ樣な筆つきで書いたのもありましたが、萬朝報が『すべて女性の眞劍の告白であつたのは同情すべきである』と書いて下さつたのは嬉しかつた。時事の婦人記者が『見るも氣の毒の記』と題して、同情ある筆で聴衆が騒いだのを氣の毒がつて下さつたのも嬉しかつた。六月には研究會を開會し、第三回婦人雄辯會は七月に開會するツモリです。第三回には新顏の方が出て下さることを希望します。(一記者)

▲バクスターといふ人は『惡を爲さゞるを以て良しとするは、石に對する賞辭にして人間に對する賞辭には非ず』といつて、引込思案の善人を戒めて居る。此世に最も必要なるは奮闘的の善人である。(ときのこゑ)

新らしき化粧法

美顏術の開祖新らしき化粧法の唱導者として夙に其名高き、東京新橋竹川町理容館主遠藤波津子女史は多年の經驗により近來其技能益々熟達し來り、婚禮の化粧法又は夜會の化粧法等に關し、貴顯紳士の家庭の招きに應じ至る所に於て、其眞價を認められ甲より乙へと傳はりて、夜を日に繼ぎて出張に忙殺され、在宅さるゝ時は殆んどなき程の始末にて、世の新らしき婦人達に、新らしき化粧法を御紹介することも一興と思ひ再三訪問せしも、不幸にして會見することを得ず、來月號には誓つて同女史が經驗上より得たる、尤も進歩せる化粧法を委細きゝ取り掲載致すべき心組ゆゑ此段豫告致して置きます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

新刊紹介

▲廿世紀の男女（坂本正雄氏著）　著者の題言の中に、『僕が滿二十才の當日、漸く脫稿したのである』と云うて居られるが、內容を通讀して此のうら若き著者の識見に敬服しました、殊に『婦人問題等と局部的名稱を附するは、女子を侮辱せしものにして、婦人對男子問題と呼ぶを至當とす』と云ふ樣な調子で婦人問題を眞面目に論じて居らるゝなど敬讀しました。（三十錢、東京京橋區銀座、警醒社）

▲ナイチンゲール（高橋正熊編著）　名婦傳第一篇として出づ、嬢は仁愛の化身とも云ふべき婦人で、其の傳記は幾度讀んでも、人をして感憤措く能はざらしむるものがあります。ソレに此の書は從來邦文で出版された嬢の傳記の何れよりも、諸種の點に於て優つて居りますから、婦人の讀みものとして誠に適當な事だと思ひます（定價五十錢、東京巢鴨町上駒込二十、內外出版協會）

▲英漢和論語、山野政太郞氏編）　ポケツト形の美本で、論語の本文の外に、英譯、和譯、外に註釋まで這入つた、極めて便利な本です。私は著者の寄贈に接してのち、此の書を坐右に備へて使てますが、極めて重宝です。皆樣に御スヽメ致します（東京京橋區銀座四の四、松本樂器合資會社、特製一圓、上製七十五錢、並製五十錢）

▲大戀愛學（純一房主人氏著）　著者曰く『私は人生を戀愛思想の向上にありと論ずるものです。男女相愛する處の戀愛の如きは、即ち之れを小戀愛と名づくべきもので、私は之れを相對的小戀愛と呼んで居ります、而してダンダン戀愛思想が發達して、妻子眷族に戀々たるの情に縛らるゝことなく、進んで一郡を思ひ一國を思ひ國家を思ひ社會を思ひ人類を思ふと云ふに至りては大いに發達した戀愛思想でありませう、是れを相對的大戀愛觀に住した人と申したい……私は御釋迦樣を指して天下一の色男だと申すのです』と、此の書は此の趣旨を述べた、菊版三百六十餘頁の書物です、文章奇氣に富んで居ます（八十錢京都市麩屋町二條南入道案內社）

▲青踏（第三卷第五號）（東京府下巢鴨町字巢鴨一一六三、其社）

▲六合雜誌（五號）（東京芝三田四國町統一基督教弘道會）

▲家庭講話（六の五）（東京巢鴨二の三五無我山房）

▲世界之日本（四の五）（東京神田區猿樂町三の一、其社）

▲修養世界（二の五）（東京麻布我善坊町其社）

▲サンデー（二二四）（東京京橋築地、其社）

▲大正婦人（五月號）（東京神田淡路町、其社）

▲婦人評論（二の九、二の十）（東京京橋弓町、萬朝報社內其社）

▲世界雜誌（五月號）（東京京橋區元數寄屋町三の一、其社）

▲ニコニコ（五月號）（東京京橋區南金六町、ニコニコ倶樂部）

▲新公論（五月號）（東京本郷東片町百十一、其社）

▲宗敎之日本（五月號）（東京府下淀橋柏木九八、大日本宗敎協會）

▲野の聲（廿三）　愛知縣中島郡起町四五城六八三、覓潮氏方）

▲家庭畫報（第一號）　麴町區三番町廿五其社

懸賞募集（〆切毎月十日）

■婦人に關する論文（二頁以内）　西川文子選

■男優りの女（二頁以内）　編輯局選

■小品文（半頁以内）　鳥林あぐり選

■口語詩（一人五首以内）　木村駒子選

■和歌（一人五首以内）　小口みち子選

■俳句（一人五句以内）　編輯局選

■小供の日記及び寫眞（五歳以下の小供）　編輯局選

■スケツチ畫　渡邊文子選

■カット　同

注意　カットは成るべく小さいもの。スケツチは二寸三寸位のもの、論文、經歴、小品文は用紙原稿紙。和歌、俳句は用紙ハガキ。

賞　使用せしカットは、五十錢づゝ、スケツチは一圓づゝ〈論文、〈其他は一等一圓、二等五十錢、三等三十錢

新眞婦人定價表（毎月一回二日發行）

一册	（郵税五厘）	拾錢
半年分	（郵税共前金）	六拾錢
一年分	（郵税共前金）	壹圓拾錢

御注意　◎注文は總て前金の事前金盡くれば必ず『盡』の一字を朱にて帶封に認む直に送金なき時は發送を停止す◎郵券代用は壹錢又は五厘切手にて一割増

◎新眞婦人廣告料　特別面三十圓、一等廿五圓、二等二十圓、普通面十五圓、木版を要するものは別に實費を申受くべし

大正貳年五月廿七日印刷納本
大正貳年六月一日發行

發行兼編輯人　本郷區駒込林町二〇〇　西川文子
及印刷人

印刷所　本所區番場町四　凸版印刷株式會社分工場

東京市本郷區駒込林町二百番地　新眞婦人社
郵便振替貯金口座東京二四五五六

季節向き化粧品陳列

御婚禮御化粧法

右御化粧法の義は當館々主多年の經驗により御素顔の美を損ぜぬやう又お召物との配合光りの接觸等入念なる注意と熟練せる技術とによりて御用命に應じ申すべく陸續御申込み相なりたく伏して希望いたし候

尚ほ季節向き御化粧品種々取り揃へ御注文に相叶ひ候やう陳列致しあり候外個人的にして一つの美術とも申すべき化粧法に關し當館多年の經驗により御相談の御相手たるべき事を確信致し居り候

東京市京橋區
竹川町一二
理容館
電話新橋一五一九
振替口座東京一四一〇〇

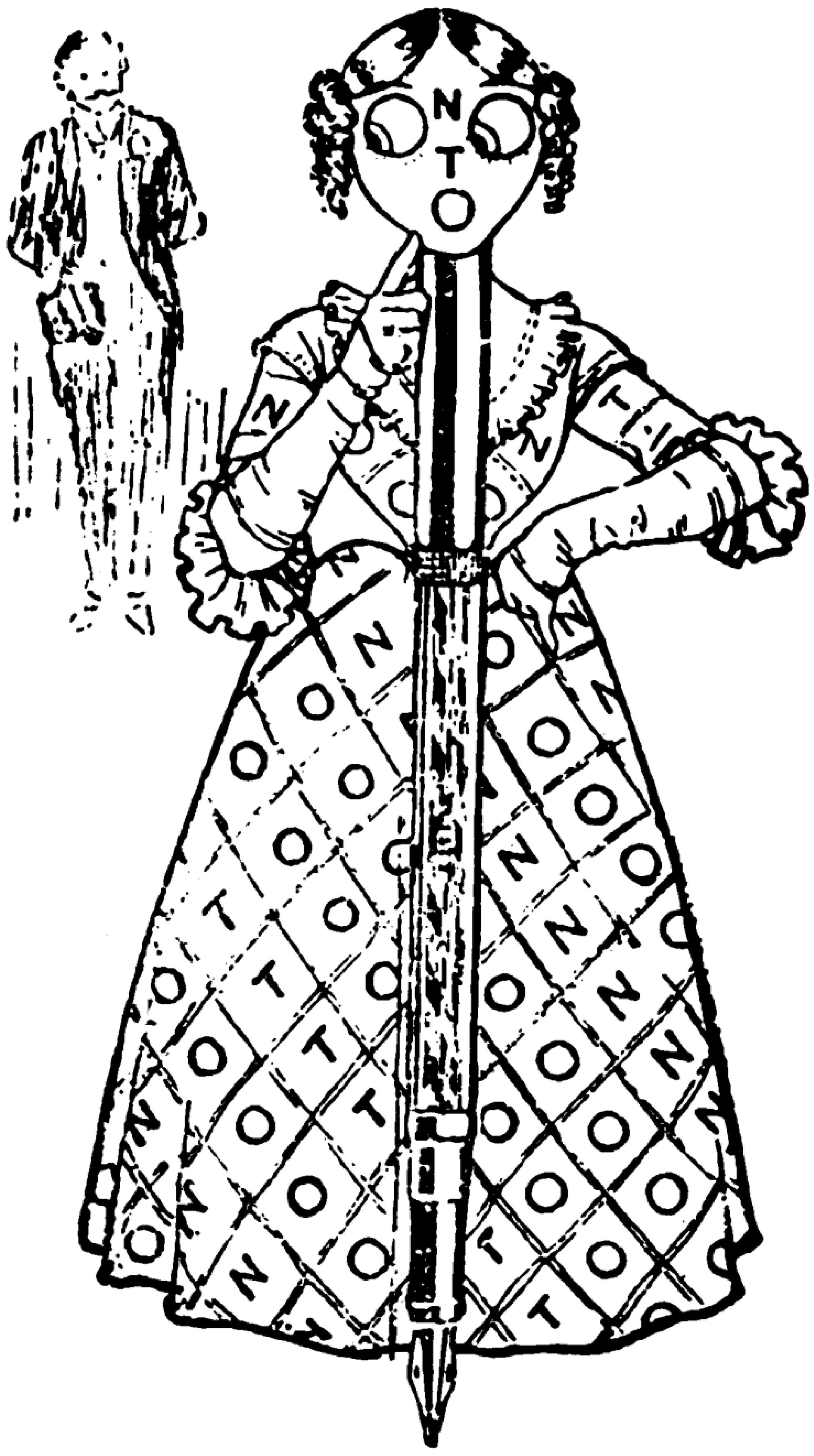
御化粧法の御相談相手

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家庭を新らしくせよ

―萬年筆を使用せよ―

主人の書齋ばかりが新らしきは一家の幸ひに非ず、却て往々不幸也、先づ婦人の身邊座右を新らしくせよ、硯箱を廢せよ、日記にも小遣帳にも手紙にも葉書にも請取にも萬年筆を用ひよ、新らしき氣分は萬年筆の金ペンより迸ばしる、簡單、敏活、清新、快潤は萬年筆の産物也



オリオン萬年筆　金貳圓八十錢　飾付金三圓廿五錢

オノト萬年筆　N號・金六圓　飾付十數種

東京市日本橋通

丸善株式會社

注意　軸部に"ORION"又は"ONOTO"の名稱なきものは模造品也●萬年筆目錄は御照會次第送呈

寫眞應需

東京神田南神保町十

平山寫眞館

腦病精神病専門

東京田端

東京腦病院

電話下谷二二〇二番

院長 後藤省吾

醫學士 黒澤良臣

古本拂底に付き高價買入

東京神田南神保町十

東條書店

最新刊

高橋淡水先生著　鈴木緑蔭先生装畫

理想の女

定價金八十錢　送料八錢

四六版三百五十頁上製裝幀頗美本

本書は近世日本史上淑德節操共に高潔にして世の模範とすべき女性二十餘名を選び、時勢と境遇とを背景とし文章流暢にして優雅、記事清新にして豐富、篇を分ちて萩の下露、阿蘇時雨俠美人、女詩人、八重葎、世話女房、畫師の妻、天下の秋、伯爵夫人以下十數篇となしよく其人の特性と人品風貌を紙上に活躍せしめ一讀百花の園に逍遙せしむるの想あらしむ家庭の讀ものとして最も健全婦人修養のため必讀すべき好著たるは勿論妻のため娘のため妹のために謹んで男子の一讀を奬む。

東京本郷一丁目大通

日東堂發兌

電話下谷四三六二番

振替東京一二五五八番

看よ思想界の羅針盤

修養世界

毎月一回一日發行　（六月號要目）

一部税共金拾壹錢　半ヶ年同金六拾錢

●會員募集
目下入會金免除會費一ヶ年前金
壹圓廿錢（會員には特點多し）

▼週訓講話……顧問　大内青巒

▼婦人問題……記者　花村小史

▼親無し子……文學士　三輪田元道

修養の根底……東大教授　原田祖岳

茶裡飯裡の修養……機外生

爲になる話……諸大家談

家庭講談　思案の外……荒井涙光

法悦……菊池一枝

遊女龜遊……ちくさ女

▼大火焔裡の轉法輪……顧問　佐々木珍龍

▼一切を截斷し去れ……主筆　菅原洞禪

新眞婦人會の内容を論ず……乙部呑海

現代名士の書齋と坐談と演説振……ホラ禪

【附錄】

陽明學講話……長谷井超山

從容錄提唱……佐々木珍龍

▼國民思想と宗教……貴族院議員 慶應義塾長　鎌田榮吉

▼向上向下の活波瀾……文學博士　遠藤隆吉

▼新日本の新修養……高等師範學校々長　嘉納治五郎

▶發行所　東京市麻布區我善坊町　振替東京貳參〇七四番　修養世界社◀

醫學博士 北里柴三郎閲
醫學博士 柴山五郎作著

增訂

最近之肺結核療法

第十二版

紙數二百餘頁　正價金壹圓貳拾錢　密封郵稅八錢

肺結核は容易ならざる疾患なり然れ共初期に於て正當なる療法を加ふれば全く治癒す本書は此の正當なる療法を述べたるものにして特に第十二版に於ては『ツベルクリン』療法の勃興に伴ひ實地使用者の便に供せんが爲めに最も實地的懇切に書き改めたり醫家は本書に依て醫より患者に示すべき方針を知り患者は本書に依て醫家命令の理由を會得し二者相俟つて治癒の彼岸に達するを得ん

内容目次

◉衛生食餌療法○營養療法○食欲不振○牛乳療法○營養製品○肉類及蛋白質製品○脂肪製品○飽食療法○乳清及葡萄療法○空氣療法○強練法○運動及横臥法○日光浴及空氣浴○呼吸操法○精神の使用○患者の日課○室内衛生○轉地療法○氣候療法○海濱療養所○航海○內地療養所○高山療養所○療養所の條件○醫の監督及病院療養○療養の時日○肺勞の衛生食餌的療法○衛生食餌的結核法の學説に對する試驗的追加○結核療法に於ける氣候及海上旅行○藥劑療法◉特異療法○ツベルクリン數件○結核血清療法◉理學的療法◉外科的療法◉對症療法○熱○盜汗○咳嗽及咯痰○咯血及血痰○疼痛○呼吸困難○心臟衰弱○不眠症○消化障害○貧血○喉頭疾患○諸他の注意○比較的治癒に於ける注意

◯ 肺結核豫防療法　醫學士竹中成憲　價六十錢　郵稅六錢

◯ 社會教育通俗 肺結核療養法　北里博士 柴山博士　六十五錢　郵稅四錢

發行所　東京神田鍛冶町　振替口座四七七二番　誠之堂書店

産科婦人科專門醫 楠田謙藏先生閲
渡邊光次先生著

第廿四版

普通 姙娠論（にんしんろん）

附り妊婦の攝生

一名兒を儲くる法

本書は久しく産科婦人科に從事して經驗に富める專門醫渡邊先生の著にして生殖器の解剖、生理、衛生を始めとし生殖に影響する全身の疾病結婚並婚姻後の注意妊娠並妊娠後の攝生に至る迄廿三章百廿項を設け悉く網羅して平易簡明に說述し加之精巧なる石版圖畫數十葉を挿入し振假名を付せられたれば苟も自己の健康に注意し系統を播殖し強健の子孫を得んと欲する諸君は男女を問はず必ず一讀せざる可らざる好著述なり一たび此書を繙かば多病なりし夫婦は壯健となり不和なりし閨門は圓熟し不妊なりし婦人は可憐の小兒を擧ぐることを得ん大方の諸君乞ふ世にありふれたる此種の著書と同一視することなく一讀其不幸を癒せらるべし

續篇 小兒養育法　石版密圖數葉挿入　紙數二百五十頁◉懷中本　正價六拾錢　密封郵送八錢

◉ 最新産婆學　楠田謙藏著　正價壹圓卅錢　郵稅八錢

◉ 衛生講話 婦人の友　産科婦人科 渡邊光次著　正價五拾五錢　郵稅八錢

◉ 普通 臨床看病法　醫士關氏著　正價三十錢　郵稅四錢

◉ 花柳病豫防療法　密圖挿入　正價六十錢　郵稅四錢

發行所　神田鍛冶町　振替口座四七七二　誠之堂書店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

世界之日本

六月號

毎月一回一日發行

定價
一部金十錢 郵税一錢
半ケ年分金六十錢 郵税不要
一ケ年分金一圓廿錢 郵税不要

▲尾崎行雄先生に與ふ……社說
▲現內閣論……伯爵 大木遠吉
▲其息の根を止めよ…伯爵 大隈重信
▲山本伯と奥田文相…文學博士 三宅雪嶺

▲純正貴族主義と徹底平民主義……本誌記者 坂本正雄
▲縦論横議……鐵山迂人
▲現代青年と理想的人物…本誌記者 田中雪次
▲卑怯なる西園寺侯……早大教授 永井柳太郎

●政界横斷論

立憲青年黨幹事長 世界之日本社長 橋本徹馬

新しき女の問題

△婦人も亦人なり・早大教授 安部磯雄
△新らしき女に就て……古き女
●青鞜社と新眞婦人會…文學博士 三宅雪嶺
△女性と政治…新眞婦人會 宮崎光子
△新しき女に與ふ・本誌記者 長橋大河

●萬事唯夢の如し…伯爵 板垣退助
●イブセン論……本誌記者 長橋大河
●日向夫人訪問記…凸坊
●世界の大勢……本誌記者
●紫式部と淸少納言(小說) さわらび
●武藏野の砲車(詩)……蓬萊學人

■横暴なる會社工場征伐(各紡績會社の慘狀)……社說

神田區猿樂町
三丁目一番地
世界之日本社
振替東京二六八六
電話本局三九一

柳川春葉作

關西三千萬の子女が涙を絞りし 空前の大家庭小說完成

生さぬなか

■上巻忽十五版■中巻忽十五版■下巻新刊■後編五月五日發行 完成

杉浦非水装釘
鰭崎英朋彩畫

上巻中巻下巻後編四冊 毎冊木版極彩色畫二葉 コロタイプ色刷版四葉挿入
鳥の子紙極彩色装釘箱入極美装
毎冊正價金九拾五錢
毎冊小包八錢 滿鮮十二錢

嚴肅なる家庭に薦むべき清新なる新小說始じめて出づ

大阪毎日に連載して讀者の大歡呼に迎へられ關西各地到る處の劇場活動に演ぜられて古今未曾有の連日大入を占めつゝある空前の大家庭小說也本書は如何なる嚴粛なる家庭にも父兄の膝下に家族團欒の内に濟讀すべき所謂自然主義的の戀愛を一切缺除したる小說にして亂淫にして且不平盡きざる家庭をも子女改心家庭圓滿たらしむる不思議なる力を有する立志小說光明小說也希くば從來頻出せる戀愛小說に快からざる諸君は「生さぬなか」に誠なる愛の力の如何に偉大なるかを知り玉はんことを

生さぬなか
ものがたり

此小說が始じめて大阪毎日に出た時讀者は平常の戀愛が少しも無いのに驚き乍ら讀んだ■著者も戀愛抜きの小說を書いて讀者が歡迎をして呉れやうとは思はなかつたが今度は在來の小說と變つた眞の父子夫婦の清い誠ある愛の力がどれ程の値があるかを書いて見たいと試みたのが成功して空前の大喝采を博した■姑嫁不平の絶えざる家庭が此小說のために圓滿平和になつた實例が澤山ある■自分の娘の嫁入先きへ送つてやつたら今迄年中嫁入先きの苦情計りを持ち込んだ娘が泣き乍ら眞砂子(生さぬなかの女主人公)さんに比べては妾はどれ位幸福かわからないと改心して來た話は澤山ある■三千圓の金を提供して普通りになつてくれと泣いて來た滿枝を叱り飛ばして從容として無實の罪に獄舎に送らるゝ俊雄の廉潔に發奮した代議士の話は未だ聞かない樣である

發兌元

東京市麹町區平河町五丁目五番地

特電話番町二〇九三番
振替口座東京三八一七番

金尾文淵堂

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

世界雜誌

每月壹回發行　定價壹冊郵税共金拾六錢　半年八十六錢　壹年壹圓六拾貳錢

▽公開狀
後藤新平——中野武營——早川鐵冶——大谷光瑞——新渡戶稻造——片岡直溫——大森順造——牧野元次郎——山本悌二郎

六月號要目

▽吾人の主張……尾崎行雄
▽憲政擁護運動の前途……森村市左衞門
▽思ふ所を直抒せば……田川大吉郎
▽第二維新の根本的國是……小山鼎浦
▽八面鋒……高島米峰
▽民黨合同論……關和知
▽帝國振興の根本義……岡田泰藏
◎自叙傳（二）……尾崎行雄
▽桐花學會に諭ふ……目黑正男
▽私どもに反對の人々……西川文子
▽倫敦通信……エガートン
▽大正風俗（木版畫十面）

社說
▽似而非なる官制改革　▽任用令改正亦非　▽第二革命乎　▽女權擴張者の狂態　▽我國の新らしき女
▽排日案の成り行き　▽所謂藝術家　▽形式過重の弊　▽嗤ふべき校長留任運動　▽電車を消毒せよ
▽藏相と大阪市債　▽地方青年啓發の急　▽海運賃の昂騰　▽露領に於ける漁權問題　▽國體擁護團

大賣捌所
東京堂　東海堂　北隆館　籾山書店　良明堂

發行所　京橋區元數寄屋町三丁目一番地　世界雜誌社　電話新橋四壹貳番

御注文の際は必ず新眞婦人に依る旨御申添を乞ふ

最簡至便の婦人保護器は

婦人になくてならぬ外國みやげは

此レディースです

婦人は何事によらず受身であつて且弱いものであります殊に婦人の尤も苦しむのは確に持病といふ子宮病及び其原因で之が其豫防と治療法とはどなたも望む處であります

淋病黴毒の豫防。御婦人方は自分がいくら健康で全く清潔を守つて居つても受身であつて夫が梅毒とか淋疾とかを病んで居る時は自然自分も其病を受けて子孫に害を遺す事になりますから御婦人は寸時も此受身である事を忘れてはなりませぬと同時に洗滌を怠らぬ樣に。

子宮内膜炎は。淋毒、姙娠、産褥、手淫、月經時の不攝生に原因し初め粘液を漏らし下腹部に疼痛を起しヒステリー症となります。

子なき婦人。其原因は子宮病が又は酸性分泌液の爲に受胎を妨ぐるのでありますから此レディースで酸性分泌液を洗滌する事が肝要です但し逆に交接後に洗滌すると姙孕しませぬから御注意なさい。

こしけ、腟カタル。といふのは多く淋病の傳染や。不潔な交接。子宮内膜炎。惡性のはれもの。蟯虫。房事過度などが原因となり粘膜のはれ又は疼痛、惡寒、發熱、近小便、交接不能を起して遂に白色の粘液が出て貧血に陥るものです。

腟創傷。異物の挿入或は、手淫外傷亂暴な交接の爲に粘膜を傷害するより起ります。

以上の諸症は適當な方法に由て豫防し治療することが出來ます其方法は外でもありませぬ現今歐米で盛んに行はれ賞讃せられて居る簡便腟洗滌法であります。

皆樣も御承知の通り今迄の洗滌器は、かさばつて試に不便でありましたが此レディースは圖の樣に簡單で且内部が誠に精巧でありますから自由自在、隨所で洗ひ且つ藥液を漏さず洗つた後も亦清淨に洗液を吸取ります。

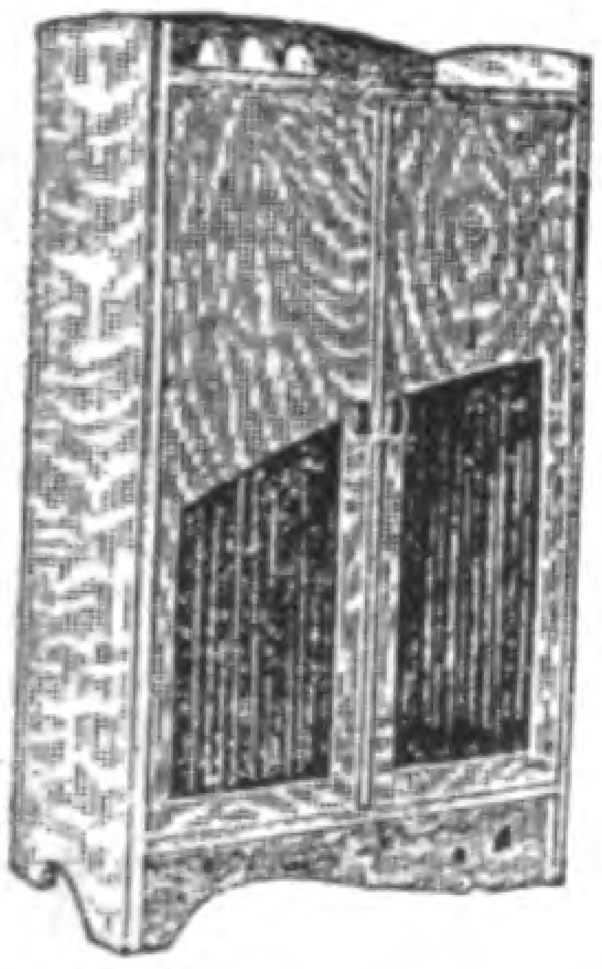
詳細の說明書は本誌購讀者に無料で送呈します。

特價 レイディース 一具箱入 金三圓
同際屬具及藥品附一箱金四圓

當會社は資本金五拾萬圓の日本第一流の紳士によりて組織せられた日本第一の製藥株式會社でありますから當社の製劑及器械には絕對的に御安心なさい

東京京橋區南傳馬町
電話京橋一八七五番
振替東京二〇五貳貳番

星製藥株式會社



御婦人向文房具

文房具にも亦御婦人向あり　伊東屋の階上には御婦人向文房具が澤山陳列有之候　御高覧お待受申上候

御婦人向文房具のうちに檜材に白ラックを施し優雅清洒を極めたる机と本箱と本置臺などあり殊に御高覧お待受申上候

机	高一尺貳寸	間口貳尺四寸	奥行一尺三寸	金五圓也
本箱	高二尺六寸	間口一尺五寸	奥行九寸	金九圓五十錢
本置臺	高一尺三寸	間口一尺四寸	奥行八寸	金三圓五十錢

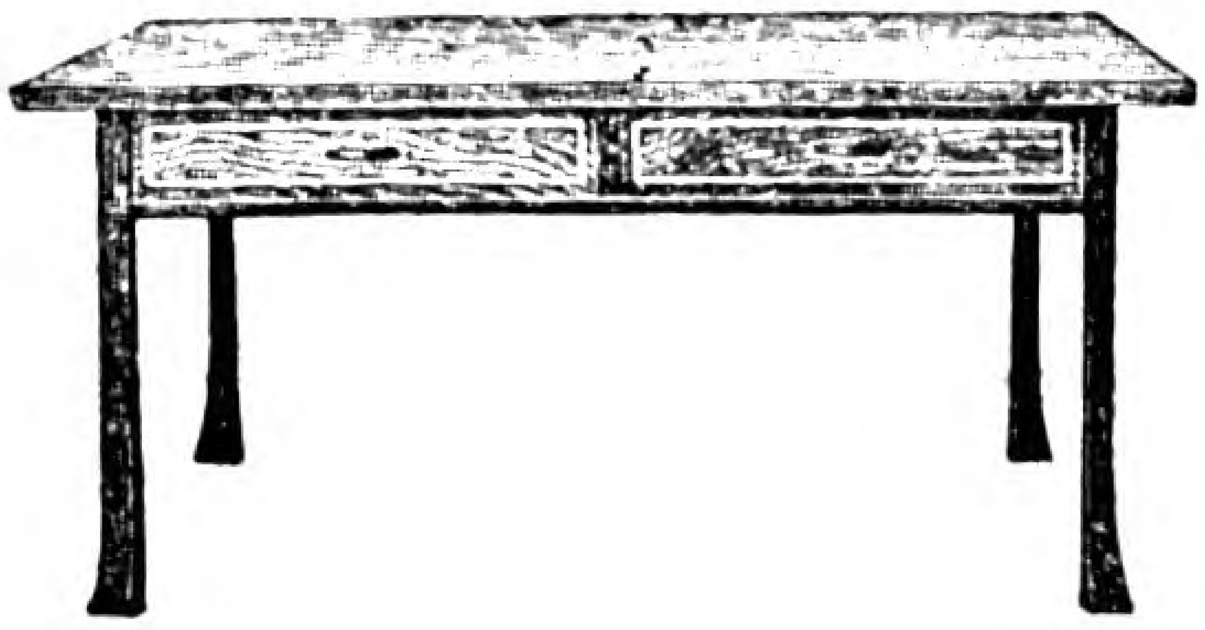
荷造費　机と本箱八十錢　本置臺三十錢

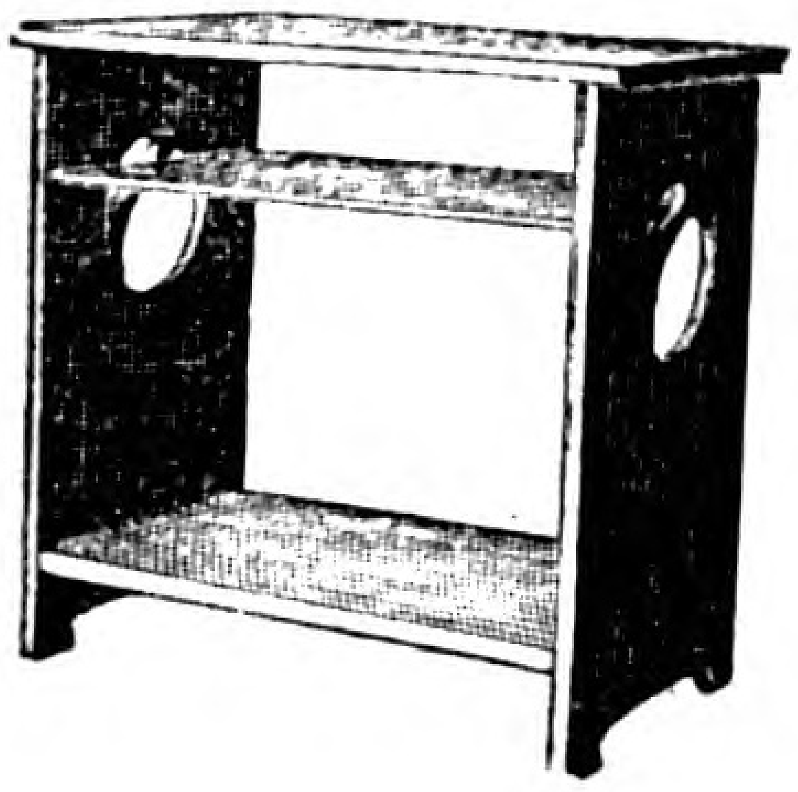
東京銀座

伊東屋

電話新橋　一三二九　一七九六

振替口座　五一一一





初夏の必要品

奥様方の御用品には、江戸趣味の中形浴衣地あり、メレンス中形、絞木綿の清楚なるものもあり、もし夫れ丸帯、片側帯、御召、半コート、半襟等に至つては、東京新流行の生粋なるもの店内一面に陳列して御撰擇御意の儘なり。

令嬢には舶來の新形束髪二枚櫛あり新案十八金製の十二ケ月指輪（五圓五十錢均一）あり、最新の化粧品は網羅し盡され、評判の三圓五十錢の琥珀製縫模様の洋傘あり、メリヤス製ヤマト裾除あり。其他指を屈するに遑あらず。

お坊ちやんの好きな玩具、麥稈の夏帽子、色鉛筆よりクレープ製の小兒用シャツ、ヅボン下（上下一組六十錢）白キヤラコ製の改良服（六十錢以上）タオル製の寢冷しらずより、赤ン坊御用のおシメカバーに至る迄、御用品澤山。

地方より御手紙にて御注文下されなば早速小包にて御届け申し上べく、『御注文の栞』は御一報次第進呈。

東京駿河町

三越呉服店

新音譜賣出し

蓄音機が娯樂品たりし時代は旣に過去に屬せり多年弊店に於て製造せる精巧無比なる八種の器械と肉聲をも凌がんとする三千餘種の音譜とは家庭に於て學校に於て進んでは廣く社會のあらゆる階級に於て殆ど必要品として其需要日に增加しつゝあり

括目して見られよ今月賣出し左記の新音譜を

（一）歌劇家としての原のぶ子女史の妙音絕調聞く者をして覺えず血沸き肉躍るの感あらしむ

（二）前古來曾有なる調和歌此れ實に澤田澤山遠藤の三名が苦心慘膽巧みに和洋の音樂を調和せし者

（三）次は納所文子孃獨得の聲調文部省發行の新唱歌五種兒童諸君が喝采の聲山野に滿つる日蓋し近きにあるべし

唱歌（ピアノ入）

一九四〇｝赤鷲印 日の丸の旗、鳩、おきあがりこぼし
一九四一｝兩面盤 人形、ひよこ、かたつむり

一九四三｝同 牛若丸、夕立、池の鯉
一九四二｝同 桃太郎、菊の花、犬

一九四四｝同 木の葉、鬼、花咲爺、
一九四五｝同 軍艦マーチ

調和歌

二三〇九｝鷲印 埴生の宿
二三一〇｝兩面盤 故郷の廢家

二三一三｝同 梅にも春（ピアノ、ヴアイオリン フリユート）
二三一四｝同 春雨

納所文子 同辨英郎 同同 同同 同同 同同 同同 同同 同同 同同 同同 原のぶ子 澤田柳吉 同 同 澤田柳吉 横山國太郎 遠藤和一

（赤鷲印兩面盤金貳圓／鷲印兩面盤金壹圓五拾錢）

全國に四拾の支店と四百の特約店あり

東京市京橋區銀座一丁目

株式會社日本蓄音器商會本店

長電話京橋｛二五八番／二五七番

大正二年四月二十六日第三種郵便物認可
大正二年五月二十七日印刷納本
大正二年六月一日發行（每月一回一日發行）